

内容解説資料



特設ウェブサイト
もご覧ください

地総046-902『高校生の地理総合』

「教科書発行者行動規範」に則った資料です

文部科学省検定済教科書
46 帝国
地総046-902
高等学校地理歴史科用

高校生の 地理総合



おもしろい!

ためになる!

世界の人々の くらしが見える教科書

人々のくらしから、世界を学ぼう!

写真は教科書内にある生活文化に焦点を当てたものです



教科書 p.146



教科書 p.103



教科書 p.130



教科書 p.119

高校生の地理総合

令和8(2026)年度発刊
地理046-902
AB判 238ページ

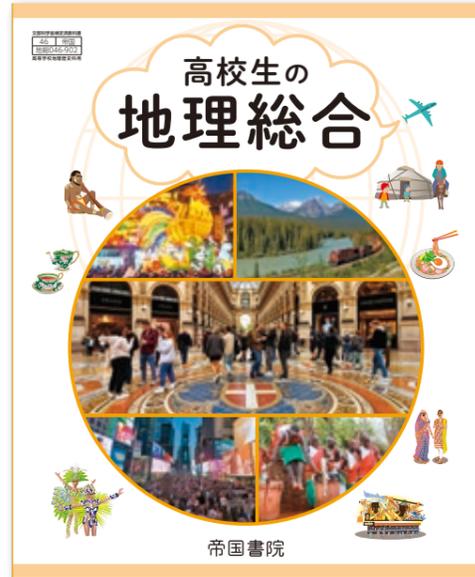
本資料のもくじ

おもしろい! ためになる!
世界の人々の
くらしが見える教科書



令和5(2023)年度以降版

大刷新!



令和8(2026)年度以降版

『高校生の地理総合』に込めた思い

「ためになった」と実感できる教科書を目指して

著作者代表 東京学芸大学 名誉教授 加賀美雅弘
帝国書院 編集部

グローバル化が進み、紛争などで国際的な緊張が高まる現代においては、豊かで安心して暮らせる世界の実現や持続可能な社会の構築が求められています。そのためには、世界の人々の生活や文化を理解し、地球的課題を多角的に考察する視点を養うことが重要です。今回発刊いたします『高校生の地理総合』は、こうした視点を育むことを目的に編修しました。

本書では、特に2部1章「生活文化の多様性と国際理解」のなかで10の地域事例を用意いたしました。そこでは、生活文化の多様性を描くことに重点を置き、その背景が理解できるよう、著者の一人ひとりが工夫を重ねてきました。そのうえで日本と比較することによって、地域ごとに異なる文化を尊重した国際理解がいつそう深まることを期待しています。

また、持続可能な地域づくりを考える上で、防災学習を重要な柱としています。日本は、豊かな自然の恩恵を受ける一方で、自然災害が多い国でもあります。そのため、本書では防災に関する知識や技能を習得したうえで、身近な生活圏で地域の課題について考察して、幅広い視野から地域づくりが議論できるようにしました。

本書を通じて、生徒の皆様が異文化を尊重する姿勢を育むとともに、実社会で役立つ知識や技能を身につけ、持続可能な社会づくりに主体的に関わってくれることを願っています。

全体構成 6

特色

①

いきいきとした地域事例を通して、生活文化の多様性が学べる教科書

- イラストマップから地域の学習を楽しくスタートできる「事例の舞台」 8
- 主題を軸に、生活文化とその変化を記述した「地域事例①～⑩」 10
- 各所に見られるいきいきとした写真や本文記述 16

特色

②

自分ごととして防災について考えられる教科書

- 自然災害のしくみがわかるビジュアルな模式図 18
- 地理的技能が着実に身につく「SKILL」ページ 20
- スモールステップで思考力・判断力・表現力が身につく「アクティビティ」 22

見開き構成 24

まとめページ 26

単元紹介

1部1章
地図・GIS 28

単元紹介

2部1章
生活文化 30

単元紹介

2部2章
地球的課題 32

単元紹介

3部1章
防災 34

QRコンテンツ

..... 36

関連教材

..... 38

特色一覧・

著作関係者 40

全体構成

特色①

特色②

見開き構成

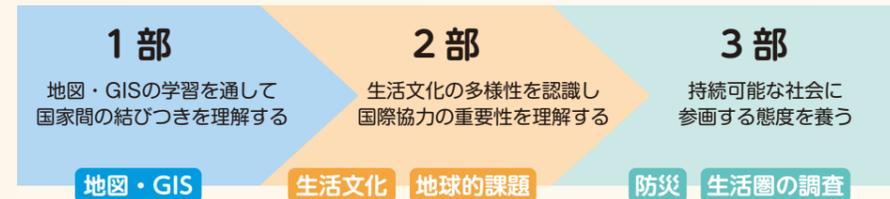
まとめページ

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

- 「生活文化」単元では、**地理学習の基礎**となる学習項目だけでなく、**世界各地の生活文化に関する事例**を充実させ、地理学習に興味・関心をもてるようにしています。
- アクティビティや「SKILL」ページを通じて地理学習を深められるようにしています。



▼ p.2-3

1部1章 地図の基礎からGISの活用方法まで習得できるようにしています。

1部2章 さまざまな地図から世界の結びつきを考察できるようにしています。

2部1章 臨場感あふれる写真と本文で、世界各地の人々のくらしが見えるようにしています。

世界各地の生活文化を学習する前に日本の生活文化を学習することで、日本と世界の共通点や相違点が理解しやすくなっています。

もくじ

世界の市場……………巻頭 1	もくじ……………2
地図から多様な現代世界を考える……………1	本書の使い方……………5

1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界

1章 地図や地理情報システムと現代世界	SKILL 6 地理院地図の利用……………20	SKILL 7 WebGISの利用……………22
1節 地球儀と地図 ……………6	2章 結びつきを深める現代世界	
1 地球上の位置と地上の現象……………6	1節 現代世界の国家と領域 ……………24	
2 経度の違いと時差……………8	1 国家の領域と国境……………24	
SKILL 1 等時帯図を読み解く……………9	2 地図からみる日本の位置と領域……………26	
3 球体と平面の世界……………10	2節 地図からみる国内や国家間の結びつき ……………28	
2節 地図と地理情報システム ……………12	1 グローバル化と多様な結びつき……………28	
1 地図の種類……………12	2 拡大する貿易……………30	
2 地理情報システムの利用……………14	3 交通・通信の発達……………32	
SKILL 2 地形図の見方と利用……………16	4 観光と人の移動のグローバル化……………34	
SKILL 3 グラフのつくり方……………17	1部のまとめ ……………36	
SKILL 4 統計地図の見方……………18		
SKILL 5 階級区分図のつくり方……………19		

2部 国際理解と国際協力

1章 生活文化の多様性と国際理解	事例1 産業 経済発展と生活文化—東アジア— ……………74	
序説 生活文化の多様性……………38	1 経済発展による生活の変化—中国—……………76	
1 生活文化を考察する視点……………38	2 多様な食文化とその変化—中国—……………78	
1節 世界の地形と人々の生活 ……………40	3 人々が集まる都市の生活と課題—中国—……………80	
1 生活と地形の関わり……………40	4 経済発展に伴う格差と暮らしの変化—中国—……………82	
2 河川がつくる地形と人々の生活……………42	5 経済のグローバル化と生活の変化—韓国—……………84	
3 海岸の地形と人々の生活……………44	事例2 自然環境 季節風(モンスーン)と生活文化—東南アジア— ……………86	
4 水河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活……………46	1 季節風の影響を受ける地域の生活……………88	
SKILL 8 地形図からとらえる地形と土地利用……………48	2 交易によって伝えられた宗教と民族の多様性……………90	
2節 世界の気候と人々の生活 ……………50	3 季節風が育んだ米食文化と生活の変化……………92	
1 生活と気候の関わり……………50	事例3 宗教・歴史 ヒンドゥー教と生活文化—インド— ……………94	
SKILL 9 雨温図の見方……………52	1 宗教と共にある生活……………96	
SKILL 10 景観写真の読み取り方……………53	2 食文化と食料生産の変化……………98	
2 熱帯の気候と人々の生活……………54	3 急速な経済発展と宗教への影響……………100	
3 乾燥帯の気候と人々の生活……………56	事例4 自然環境 乾燥した気候と生活文化—中央アジア・西アジア・北アフリカ— ……………102	
4 温帯の気候と人々の生活……………58	1 乾燥した風土のなかで育まれた多様な文化……………104	
5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活……………60	2 乾燥地域で生まれた宗教と生活への影響……………106	
3節 世界の産業と人々の生活 ……………62	3 豊かな石油資源と生活の変化……………108	
1 生活を支える農業の発展……………62	事例5 宗教・歴史 植民地支配の歴史と生活文化—サハラ以南アフリカ— ……………110	
2 生活を支える工業の発展……………64	1 多様な文化と植民地支配の歴史……………112	
4節 世界の言語・宗教、歴史的背景と人々の生活 ……………66	2 植民地支配の影響が残る生活……………114	
1 言語・宗教の多様性と歴史的背景……………66	3 情報革命で大きく変化する生活……………116	
2部1章のまとめ① ……………68		
5節 生活文化の多様性と地理的環境 ……………70		
1 世界からみた日本の生活文化……………71		

本論では基礎的な学習項目を学習できるようにしています。**本論**の後ろに10の地域の**事例**をまとめて掲載し、選択しやすいようにしています。自然環境、産業、宗教・歴史の各テーマから1つずつ**事例**を選択して追究することで、衣食住を中心とした生活文化をしっかりと理解できます。

事例6 宗教・歴史 伝統の継承と生活文化—ヨーロッパ— ……………118	2部1章のまとめ② ……………158
1 古いまち並みとキリスト教文化……………120	アクティビティ 日本の生活文化を紹介しよう!……………160
2 伝統的な食文化と地域による違い……………122	2章 地球的課題と国際協力
3 物を大切にする文化と環境への配慮……………124	序説 複雑に絡み合う地球的課題……………162
4 地域統合と生活の変化……………126	1 地球的課題と解決に向けた目標……………162
事例7 自然環境 寒冷な気候と生活文化—ロシア— ……………128	1節 人口問題 ……………164
1 寒冷地での生活の工夫……………130	1 発展途上国の人口問題……………164
2 豊かな資源を生かした人々の生活……………132	2 先進国の人口問題……………166
事例8 産業 世界に影響を与える産業と生活文化—アメリカ合衆国— ……………134	SKILL 11 人口ピラミッドの読み取り方……………167
1 産業を支える移民とその文化……………136	2節 食料問題 ……………168
2 大規模な農業がもたらす食への影響……………138	1 飢餓と飽食……………168
3 世界に広まった最先端の技術を生かした生活様式……………140	3節 都市・居住問題 ……………170
事例9 宗教・歴史 開発の歴史と生活文化—ラテンアメリカ— ……………142	1 発展途上国の都市・居住問題……………170
1 多様な民族によって生まれた独自の生活文化……………144	2 先進国の都市・居住問題……………172
2 伝統的な食文化と農業開発の歴史……………146	4節 感染症・衛生問題 ……………174
3 鉱工業の発展による生活の変化……………148	1 広がる感染症と衛生問題……………174
事例10 宗教・歴史 移民の歴史と生活文化—オセアニア— ……………150	5節 資源・エネルギー問題 ……………176
1 ヨーロッパ文化と先住民の文化……………152	1 限りある資源・エネルギー……………176
2 移民と先住民が育んだ食文化……………154	2 資源・エネルギー問題への取り組み……………178
3 オセアニアの生活に深く関わるアジア……………156	6節 地球環境問題 ……………180
	1 国境を越えて広がる地球環境問題……………180
	2 地球温暖化と国際的な取り組み……………182
	2部2章のまとめ ……………184
	アクティビティ 持続可能な社会に向けて私たちができること……………186

3部 持続可能な地域づくりと私たち

1章 自然環境と防災	SKILL 13 地理院地図でみる自然災害による被害……………208
1節 自然災害と暮らし ……………188	SKILL 14 災害の危険度を新旧地形図でとらえる……………209
1 世界での自然災害とその対応……………188	5節 自然災害への備え ……………210
2節 日本の自然環境 ……………190	1 減災への取り組みと被災地への支援……………210
1 日本の自然環境と人々の生活……………190	3部1章のまとめ ……………212
3節 地震・津波や火山活動による災害と防災 ……………192	アクティビティ 自然災害から命を守ろう!……………214
1 地震・津波のしくみと被害……………192	2章 生活圏の調査と地域の展望
2 地震・津波災害と地域の取り組み……………194	1節 生活圏の調査と地域の展望 ……………216
3 火山の恵みと噴火による被害……………196	1 地理的な調査テーマの設定……………216
4 火山災害と地域の取り組み……………198	SKILL 15 WebGISを活用した統計地図のつくり方……………218
5 地震・津波や火山活動への対策……………200	SKILL 16 地域の変化を新旧地形図でとらえる……………220
SKILL 12 ハザードマップの見方……………201	2 事前調査と現地調査……………221
4節 気象災害と防災 ……………202	3 調査結果の分析と仮説の検証……………222
1 さまざまな気象災害……………202	4 調査結果のまとめと地域社会への参画……………224
2 集中豪雨・都市型災害・雪害と地域の取り組み……………204	SKILL 17 調査結果のまとめ方とプレゼンテーション方法……………225
さくいん……………226	さまざまな分野で活用が進むGIS……………巻末4
世界の家畜・畜産物・農産物……………巻末1	

【使用上の注意】国名には略称を用いています。主な略称は以下のとおり。
中国…中華人民共和國 韓国…大韓民國 北朝鮮…朝鮮民主主義人民共和國

2部2章 具体的な本文から地球的課題への理解を深め、身近な話題からそれらを自分ごととして考えられるようにしています。

3部1章 過去の災害を通して、自然災害発生のしくみを理解し、実践的な防災学習ができるようにしています。

3部2章 地域調査の手法からまとめ方まで丁寧に学習できるようにしています。

- 地域事例は、自然環境、産業、宗教・歴史のいずれかの視点をテーマとしており、地域の導入である「事例の舞台」と主題にもとづいた本文ページで構成しています。
- 事例として取り上げる10の地域の冒頭に、生活文化を概観できるイラストマップと写真を掲載しています。
- イラストについては、その地域の生活文化を示す衣食住や行事、歴史的建造物、動植物を取り上げ、生徒の興味・関心を引き出し、地域のイメージをもって学べるようにしています。

p.142-143

事例 9 宗教・歴史 p.66~67 **開発の歴史と生活文化 — ラテンアメリカ —**

見通し・振り返りシート

特色ある独自の文化や産業は、他地域からもたらされた文化や開発の歴史が関わっていることがある。ここではラテンアメリカを舞台にして、開発の歴史と生活文化との関わりや生活の変化をみていこう。

主題 ヨーロッパ人の進出による開発の歴史は、人々の生活や文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。

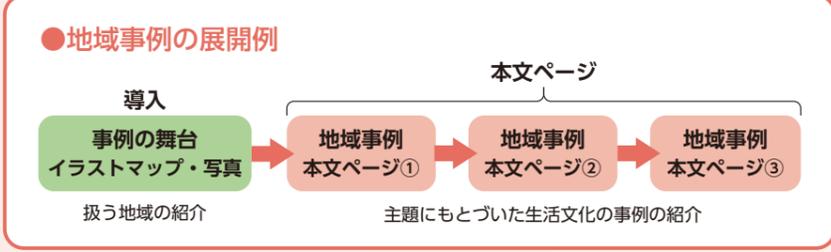
事例の舞台 — ラテンアメリカ —

POINT 1

生活文化を追究するためのテーマに沿って主題を設置し、学習にあたって着目すべきポイントがわかるようにしています。

POINT 2

リオデジャネイロのカーニバルやさとうきび栽培など、本文ページで学習する事例のイラストを掲載し、導入の役割をもたせています。イラストには本文ページへのリンクを付しています。QRコンテンツでは、掲載しているイラストの解説を確認できます。(⇒本資料 p.36-37)



事例地域の基礎情報

ラテンアメリカ
Latin America

- ✓ 人口・6億5390万(主に2021年)
- ✓ 面積・2042万km²(2021年)
- ✓ GNI・5兆3359億ドル(主に2021年)



POINT 3

行政区分図を掲載し、国名や国境が判別できるようにしています。



豊作の祈願と感謝！ インティライミは、太陽に豊作の祈願と感謝をする祭りで、毎年6月の冬至に開催されるんだ！色鮮やかな民族衣装を身にまとった人々が、踊りやパレードなどをするよ。

POINT 4

ブエノスアイレスのまち並みの様子など、地域の生活文化がわかる写真を掲載しました。ラテンアメリカを学習する前の導入として活用できるようにしています。



南米のパリ!? ブエノスアイレスは、「南米のパリ」とよばれるほど美しいまち並みなんだ！アルゼンチンは、国民のほとんどがヨーロッパ系移民の子孫で、ヨーロッパの国の影響が特に強いんだよ。

142 地図帳活用 南アメリカの地図で、ラテンアメリカを構成する国々を確認しよう。また、上のイラストマップと比較しながら、高地や山脈、大きな川の流れなどを確認しよう。

143

全体構成

特色 ①

特色 ②

見開き構成

まとめページ

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

いきいきとした地域事例を通し

▶ 主題を軸に、生活文化とその変化を記述し

- 本文は、衣食住、宗教、習慣などの生活文化を、その地理的背景とともに丁寧に記述し、世界各地の生活文化の多様性が実感できるようにしています。
- 臨場感あふれる写真で、世界各地の生活文化が見えるようにしています。

▼ p.144-145



↑1 リオデジャネイロのカーニバル(ブラジル、2023年2月)。カーニバルで使われるサンパのリズムはアフリカ音楽をもとにしており、アフリカに起源をもつ楽器も使われている。また、踊りもアフリカ系の人々の踊りがもとになっている。

1 多様な民族によって生まれた独自の生活文化

ヨーロッパ人の進出は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか？

【着目!】 歴史的背景や宗教、自然環境に着目しよう。

POINT 1
カーニバルの様子を伝える導入写真と本文によって、カーニバルの習慣はヨーロッパ系とアフリカ系の文化の影響を受けて成立したことがわかるようにしています。



↑2 タンゴを踊る人(アルゼンチン、ブエノスアイレス、2017年)。タンゴは、移民が集まるブエノスアイレスの港町で生まれた。レストランやカフェなど街の至る所でタンゴを踊る人々が見られる。

ヨーロッパの影響が色濃く残る生活文化
リオデジャネイロのカーニバルは、日本でもよく知られている恒例行事である。カーニバルの参加者たちは数千人からなるチームをつくり、1年かけて準備を進める。奇抜な衣装や装飾された大きな山車、たくさんの打楽器で盛り上げ、採点形式で優勝を競い合っている。このような大規模な競技会ばかりでなく、街の至る所で小規模なカーニバルも開催されている。カーニバルは、もともと謝肉祭とよばれるヨーロッパにおけるカトリックの行事だったが、アフリカ系の人々が参加することで、サンパのリズムで踊るにぎやかな祭りに変化した。

また、アルゼンチンの舞踏音楽タンゴは、ヨーロッパやアフリカなどの音楽が混ざり合って生まれたものである。観光客向けのショーばかりでなく、タンゴを踊るためのダンス教室も多く、そこで練習をしたり、ダンスパーティーを楽しんだりすることが、日常的に行われている。

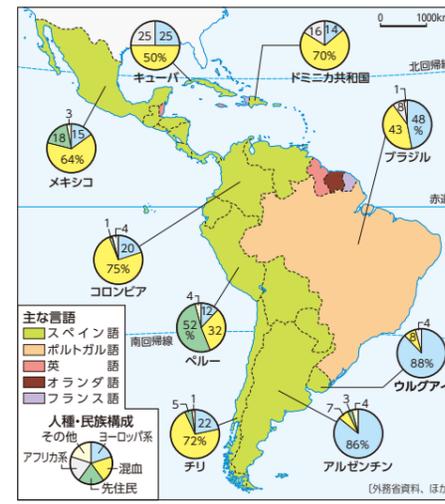
ラテンアメリカで、ヨーロッパとアフリカの文化や伝統が融合し独自の文化が生まれた背景には、歴史が深く関わっている。もともとラテン

て、生活文化の多様性が学べる教科書

た「地域事例①～⑩」

●本書で追究する地域事例の一覧(全10事例)

ページ	テーマ	主題を軸に展開した地域事例	ページ	テーマ	主題を軸に展開した地域事例
p.74-85	産業	経済発展と生活文化—東アジア—	p.118-127	宗教・歴史	伝統の継承と生活文化—ヨーロッパ—
p.86-93	自然環境	季節風(モンスーン)と生活文化—東南アジア—	p.128-133	自然環境	寒冷な気候と生活文化—ロシア—
p.94-101	宗教・歴史	ヒンドゥー教と生活文化—インド—	p.134-141	産業	世界に影響を与える産業と生活文化—アメリカ合衆国—
p.102-109	自然環境	乾燥した気候と生活文化—中央アジア・西アジア・北アフリカ—	p.142-149	宗教・歴史	開発の歴史と生活文化—ラテンアメリカ—
p.110-117	宗教・歴史	植民地支配の歴史と生活文化—サハラ以南アフリカ—	p.150-157	宗教・歴史	移民の歴史と生活文化—オセアニア—



↑3 ラテンアメリカの主な言語と人種・民族(読み解き) 国によって人種・民族構成にどのような違いがあるのだろうか。

JAPAN
ラテンアメリカの日系人

2022年現在、ブラジルには約190万人の日系人が暮らしている(推計)。日本からブラジルへの移住は1908年に始まった。当初は、コーヒー農園の労働者が多かったが、農園の仕事は厳しかったため、ほかの仕事へ転向する人もいた。その後、土地を所有し、野菜や果物の栽培、鶏の飼育などで成功する人が出てきた。一方、都市へ移り住み、飲食店などのサービス業を始める人もいた。また、日本からの移民は子供の教育を大切にしたいため、その子孫である日系人は進学率が高く、多方面で活躍している。

1990年代以降は、日本の法改正により、ブラジルやペルーなどに住む日系人が日本で仕事に就くことができるようになった(→p.35)。特に自動車関連工場の多い群馬県大泉町や静岡県浜松市などでは、現在、多くのラテンアメリカ出身の日系人が働いている。

→4 サンパウロの日本人街で開かれた七夕祭り(ブラジル、2023年7月)

POINT 2
コラム「JAPAN」では、ラテンアメリカに住む日系人の歴史や日本とのつながりを学習できるようにしています。

アメリカでは、インカ帝国に代表されるような先住民の高度な文明が栄えていた。しかし、スペインやポルトガルなどのラテン系のヨーロッパ人が進出し、植民地を広げたことによって、その文明は急速に衰退した。植民地時代には、先住民はプランテーションや鉱山などで働かされ、厳しい労働や感染症の影響でその人口が減少すると、アフリカから奴隷として大勢の人々が連れてこられた。そして、それらの人々の混血が進むことで人種と民族がさらに多様化した。現在でも、多くの国でスペイン語やポルトガル語が話され、カトリックが信仰されている。

先住民の伝統を受け継いだ生活文化
ラテンアメリカには、今日も先住民による伝統的な生活がみられる地域がある。エクアドルやペルー、ボリビアなどのアンデス諸国に暮らす先住民は、その多くが農業を営んだり、家畜としてリャマやアルパカを飼育したりするなど、昔ながらの生活を守っている。また、石や日干しれんがを積んで壁をつくり、わらで屋根をふいた伝統的な住居に暮らしている人々も多い。

アンデスの高地は高山気候の特徴をもち、気温の日較差が20～30℃と大きく、夜は0℃近くまで冷え込むことがある。一方、日中は日差しが強く、帽子は欠かせない。人々はアルパカの毛で編んだ衣服を重ね着して、つばの広い帽子をかぶり、寒さや強い紫外線を防いでいる。



↑5 民族(ペルー、アルパカ)

●日本と世界との結びつきの事例を紹介するコラム「JAPAN」一覧(全11か所)

ページ	内容
p.31	CPTPPと日本への影響
p.83	経済的な結びつきが強い中国と日本
p.90	ビジネス化するハラール
p.101	日本でも活躍するインド系移民
p.109	復興を支える日本の技術
p.117	日本からアフリカへ伝える「カイゼン」
p.125	ヨーロッパと日本の文化交流
p.132	日本の食卓に関わるロシア
p.137	独自の進化を遂げた日本食
p.145	ラテンアメリカの日系人
p.157	日本人建築家が設計に携わった紙の大聖堂

● 確 族が多 書きし 説 の違い

- 地域の伝統的な生活文化とその変化を地理的背景とともに記述し、世界各地の生活文化の今の姿が理解できるようにしています。
- 帝国書院が現地撮影した写真を多数掲載しています。

●世界の諸地域のさまざまな異文化を紹介するコラム「世界の街かど」一覧(全10か所)

ページ	内容	ページ	内容
p.85	伝わるとうがらしの文化	p.127	直面する異文化との融和
p.91	中国文化と現地の文化の融合	p.131	トナカイと暮らすネッツの人々
p.99	イギリスの影響を残す、茶の文化	p.139	地元で愛されるファーマーズマーケット
p.107	さまざまな女性の服装	p.148	ファベラとサッカー
p.113	公用語として広まったスワヒリ語	p.154	観光客に人気！珍しい動物たち

▼ p.146-147



↑ 多くの品種のじゃがいもが並ぶ市場(ペルー、アレキパ、2018年10月)



↑ アルゼンチンの国民的料理であるアサド(フエフスアイレス近郊、2016年) 牛肉や豚肉を焼いた料理はアサドとよばれる。



↑ リオデジャネイロのまち並み(ブラジル、2012年) 都心部には高層ビルが林立する一方で、すぐ近くの丘にはファベラが広がっている。

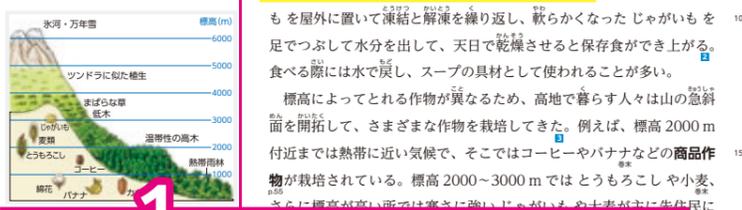
2 伝統的な食文化と農業開発の歴史

自然環境や歴史的背景に着目しよう。

アンデス諸国の伝統的な食文化

アンデス山脈沿いにある農村の市場には、じゃがいもやとうもろこしなどの作物、先住民の伝統料理を売る店が並び、地元の人々や観光客でにぎわっている。先住民の主食であるじゃがいもやとうもろこしはアンデス原産とされ、インカ帝国以前から栽培されており、その種類は豊富で色もさまざまである。ペルーでは、じゃがいもは食卓に欠かせない食材である。じゃがいもやかぼちゃ、豆などの入ったスープを炊いた米にかけて食べる料理は、ペルーの代表的な伝統料理の一つである。また、じゃがいもは、気温の日較差が大きい気候を生かして、保存食にも加工される。収穫したじゃがいもを屋外に置いて凍結と解凍を繰り返し、軟らかくなったじゃがいもを足でつぶして水分を出して、天日で乾燥させると保存食ができていく。食べる際には水で戻し、スープの具材として使われることが多い。

標高によってとれる作物が異なるため、高地で暮らす人々は山の急斜面を開拓して、さまざまな作物を栽培してきた。例えば、標高2000m付近までは熱帯に近い気候で、そこではコーヒーやバナナなどの商品作物が栽培されている。標高2000～3000mではとうもろこしや小麦、さらに標高が高い所では寒さに強いじゃがいもや大麦が主に先住民に



じゃがいもなどを使ったアンデス諸国の伝統的な食文化は、気温の日較差や先住民の存在など、自然環境や歴史的背景をもとに形成されたことがわかるようにしています。

コラム「世界の街かど」では、ファベラにもサッカーでの成功を夢みる子供がいることなど、地域独自の文化を掘り下げています。

3 鉱工業の発展による生活の変化

鉱工業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか？

ブラジルでは、20世紀半ばから工業化が急速に進んだことで、人々の生活水準は大きく向上した。都市部では自動車の普及や高速道路、地下鉄などの整備が進み、高所得層が暮らす高層マンションが林立している。一方で、発展した都市部に、職を求め多くの住民が流入した。この結果、都市部では住宅が不足し、貧困層は急な斜面や川沿いの空き地などに暮らすようになり、ファベラとよばれるスラムが形成された。ファベラにある家の多くは電気や水道などのインフラが整っておらず、路上で生活するストリートチルドレンもみられる。貧困から教育や福祉のサービスを受けられず、犯罪に巻き込まれる子供たちも多いため、教育支援や居住環境の改善が支援団体によって行われている。

ブラジルの工業化の背景には、豊富な鉱産資源の存在がある。ラテンアメリカでは、鉄鉱石、原油、すず、銀、銅などがとれ、アンデス山脈周辺の国々では、スペイン人の入植以前から銀や銅などの採掘が行われてきた。16世紀中頃にはボリビアで銀鉱床が発見され、スペインは先住民を酷使して鉱山を開発した。また、銅が豊富なチリでは、20世紀



↑ ファベラの子供たち(ブラジル、リオデジャネイロ、2018年)

POINT 3

工業化により生活水準が向上した一方で、住宅環境が悪化した人々もいるなど、産業の発展に伴う生活の変化を本文で丁寧に記述しています。

POINT 4

最後に事例の振り返りとして、問いを設置しています。ヨーロッパ人進出による開発の歴史を背景にもつ人々の生活や文化と、その変化をまとめるようにしています。

▼ p.148-149



↑ ブラジルの航空機メーカーのエンプラエル社の工場(ブラジル、サンパウロ近郊、2015年) エンプラエル社は小型旅客機の市場で高いシェアをもち、アメリカ合衆国など世界各地に輸出している。



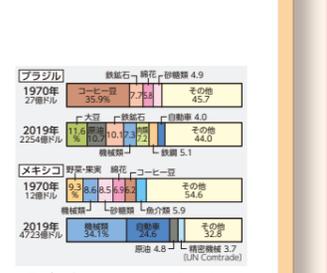
→ 鉱産資源の分布と1人あたりのGNI(2019年) 鉱産資源の分布と1人あたりのGNIにはどのような関係があるのだろうか。

初頭にアメリカ合衆国の企業を中心に大規模な鉱山の開発が進められた。こうした歴史を背景に、ラテンアメリカの国々では、鉱産資源や農産物の輸出に依存したモノカルチャー経済が長く続いた。こうしたなか、鉄鉱石やボーキサイト、マンガンなどで世界有数の生産量を誇るブラジルは、これらをもとに、1960年代から外国資本を積極的に受け入れることで、大都市とその周辺で工業化が進んだ。現在では、航空機やコンピュータ関連の先端技術産業、自動車関連産業が盛んであり、BRICSの一国として注目を集めている。また、ブラジルと近隣諸国は、1995年に南米南部共同市場(MERCOSUR)を結成するなど、経済的な地域統合に向けた努力を進めている。

隣国と結びついた工業化と生活の変化

メキシコにおいても、豊富な鉱産資源や工業の発展を背景に人々の生活水準は向上し、中間所得層や高級住宅地に暮らす高所得層が増えている。

メキシコでは、1960年代にアメリカ合衆国から無税で輸入した部品などをメキシコの安い労働力で組み立て、完成した製品をアメリカ合衆国へ輸出する貿易が始まった。米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の前身であるNAFTAが1994年に結成されると、工場の進出がさらに拡大し、自動車や電子機器などの輸出が増え、経済も発展していった。しかし、メキシコでも所得格差や貧困が問題になっており、アメリカ合衆国への移住者も増え、メキシコ政府は格差の解消に取り組んでいる。



↑ ブラジルとメキシコの輸出品の変化(読み直し) ブラジルとメキシコでは、輸出品の変化にどのような違いがあるのだろうか。

読者 ラテンアメリカでとれる鉱産資源を、本文から書き出そう。

説明 ブラジルで工業が発展した理由と、人々の生活の変化を説明しよう。

事例の振り返り ラテンアメリカを例に、ヨーロッパ人の進出による開発の歴史を背景にもつ人々の生活や文化と、その変化を説明しよう。

いきいきとした地域事例を通し

▶ 主題を軸に、生活文化とその変化を記述し

- 日本と世界の生活文化における共通点や相違点を見いだすためのページを、世界の地域事例を学習する前に設置しています。
- 日本と世界を比較する視点を身につけることで、世界各地の事例を学習する際に、理解が深まるようにしています。

▼ p.72-73



↑6 回転ずし店で食事をする人々(イギリス、ロンドン、2008年) 和食のなかでも すし は、その国や地域の人の好みに合わせて形を変え、世界中で愛されている(→ p.137)。



↑7 地元の農家が育てた農産物売る直売所(東京都葛飾区、2015年)

食文化における共通点と相違点 世界の温暖で降水量が多い地域と同様に、日本では古くから稲作が行われ、米が主食とされてきた。また、国土が海に囲まれ、豊かな自然が広がる日本では、多様な食材が手に入る。世界で魚介類を食べる人は多いが、すしや刺身など魚を生で食べる習慣はあまりみられない。一方で、素材を生かした料理である和食は、海外でも評価されており、ユネスコの無形文化遺産に登録された。日本では、仏教の影響から江戸時代までは肉食が避けられていたが、明治時代に肉食を含む欧米の食文化が伝わり、現在では食生活における宗教の影響はほとんどない。世界には、豚肉を食べることや飲酒が禁じられたイスラム教や、神聖な動物である牛の肉を食べず、さらには不殺生の教えから肉食主義者も多いヒンドゥー教徒がおり、そこには相違点が多いようにみえる。しかし、イスラム教やヒンドゥー教徒も鶏肉や羊肉、魚などは食べており、日本の食生活との共通点も多い。

第二次世界大戦以降、日本ではパン食の浸透によって米の消費量が減り、グローバル化のなかで果物や嗜好品の多くを海外から輸入するようになるなど、食文化の違いはさらに縮まりつつある。こうしたなか、日本では食の安全や地元の農家を守る動きもあり、現在は地産地消、すなわち地域の食材を意識的に食べることが推奨されている。

和食の特徴として、多様な新鮮な食材とその持ち味の尊重、健康的な食生活を考える栄養バランス、自然の美しさや季節の移ろいの表現、年中行事との密接な関わりなどが挙げられる。

自然環境やグローバル化の影響を受けた食文化は何か？
また、食文化における日本と世界の共通点・相違点は何か？



POINT 1
魚を生で食べる日本の習慣や、鶏肉や羊肉、魚を食べる日本人とイスラム教やヒンドゥー教徒の共通の習慣を記述しています。日本と世界の食文化の共通点や相違点がわかるようにしています。

て、生活文化の多様性が学べる教科書

た「地域事例①～⑩」



↑8 クリスマスのイルミネーションを楽しむ人々(東京都渋谷区、2019年12月)



↑9 神社で初詣をする人々(東京都千代田区、2024年1月)



↑10 大晦日に寺で鐘をつく人々(岡山県倉敷市、2018年12月)

POINT 2
クリスマスや正月など身近な宗教行事を取り上げ、日本の年中行事が世界各地のさまざまな生活文化と関係していることがわかるようにしています。



↑11 茶道の実演を見学する外国人観光客(京都市、2017年)

② 川や森、岩といった自然や、雨や雷といった自然現象を敬うことから生まれた、日本独自の宗教のこと。教祖や教典はない。

POINT 3
日本と世界の文化や習慣を比較させる問いを設置しています。次のページ以降で、世界の地域事例を学習する際のヒントとなるようにしています。

日本における、宗教を背景とした習慣や行事は何か？
また、文化や習慣にみられる日本と世界の共通点・相違点は何か？



いきいきとした地域事例を通し

▶ 各所に見られるいきいきとした写真や本文

● 臨場感あふれる写真と具体的な本文で、現地に住んでいる人々の生活文化をイメージできるようにしています。

▼ p.56-57



↑1 朝日に照らされた砂漠と緑豊かな耕地(エジプト、ルクソール、2018年4月) ナイル川に沿って用水路が張り巡らされ、さとうきび畑が広がる。周辺には古代エジプト文明の遺構が残っており、気球に乗って上空から眺めることができる。
↑2 伝統的な白干しれんがの家(エジプト、2月)

POINT 1

導入写真として砂漠とその横に広がる耕地の写真を掲載し、乾燥帯の自然環境と灌漑による人々のくらしの工夫が見えるようにしています。

3 乾燥帯の気候と人々の生活

乾燥帯の地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか？

着目!! 年降水量と灌漑設備に着目しよう。

QRコンテンツ
動画(灌漑)



● 地表面の熱が放出されて、気温が低下すること。特に晴れて風のない夜に冷える。



↑3 灌漑用の水路で水くみをする様子(オマーン、ニズワー近郊、2018年9月) 飲用水のための水路、洗濯や食器洗いといった生活用水のための水路などがある。

水の少ない乾燥帯

乾燥帯は、降水量が非常に少なく、背の高い樹木が育ちにくい地域である。昼は日差しが強く高温となるが、夜は放射冷却によってかなり冷え込む。

乾燥帯は、砂漠気候とステップ気候に分類される。砂漠気候(BW)は、降水量が極端に少ない気候である。そのため、植生はほとんどみられず、岩石や砂ばかりの砂漠が広がっている。砂漠は、亜熱帯高圧帯や、大陸の内陸部、寒流の影響を受ける大陸の西岸、大きな山脈の風下などにある。砂漠で生活する人々は日射を防ぐことができ、通気性のよいゆったりとした衣服を着て、日干しれんがのできた家に住み、オアシスの周辺に集落や耕地をつくって暮らしてきた。また、地下水路を掘り、集落に地下水を引くといった伝統的な灌漑によって水を確保してきた。現在では、ラスヴェガスのように離れた川にあるダムから水を引いたり、アラブ首長国連邦などのように地下水をくみ上げば海水の淡水化も行っている。

POINT 2

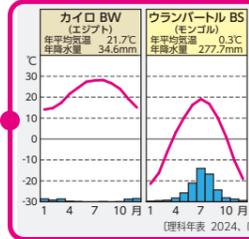
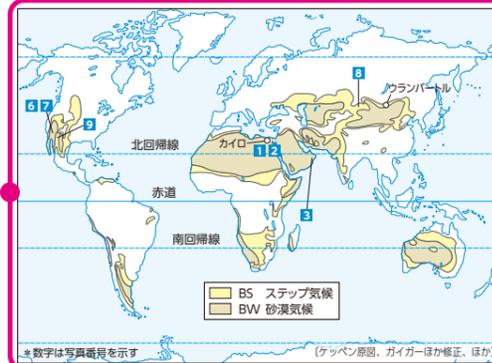
通気性のよい衣服や日干しれんがの住居など、衣食住に言及した本文記述で、乾燥帯で生活する人々のくらしが具体的にイメージできるようにしています。

て、生活文化の多様性が学べる教科書

記述

POINT 3

気候帯の各見開きにおいては、同じ縮尺の地図と雨温図を同じ位置に掲載し、ほかの気候帯と比較しやすいようにしています。

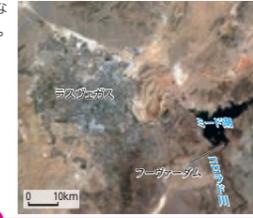


↑4 乾燥帯の分布
読み解き 乾燥帯は、どのような地域に広がっているのだろうか。

↑5 乾燥帯の気温と降水量
読み解き 砂漠気候とステップ気候は、降水量にどのような違いがあるのだろうか。



↑6 砂漠のなかにつくられた都市ラスヴェガス(アメリカ合衆国、ネヴァダ州、2018年) 街の中心部には、カジノを併設した大規模なホテルが集まっている。



↑7 宇宙から見たラスヴェガス(アメリカ合衆国、2014年9月) 生活用水と電力は、街の中心から約50km離れた所にあるダムから供給されている。このダムはコロラド川の峡谷につくられたものであり、貯水量は、日本のダムの貯水量を上回る。



↑8 ステップでの遊牧と点在する移動式の住居ゲル(モンゴル、2019年7月) モンゴル高原では羊や馬などの遊牧が盛んで、家畜の餌となる草を求めて移動する。



↑9 センターピボットによる灌漑農業(アメリカ合衆国、コロラド州、2023年8月) 地下水をくみ上げて回転するアームから散水するため、円形の農地になる。

ステップ気候(BS)は、砂漠気候よりもやや降水量が多い地域に広がっている。ステップとは草丈の短い草原のことである。草原では羊や馬などを飼育し、牧草を求めて広い範囲を移動する遊牧が行われている。降水量が比較的多い地域では草の量も多く、肥沃な黒土が形成されやすい。そのため、灌漑設備の整った地域は、世界有数の穀倉地帯となっている。人手をかけず、広い範囲を灌漑するために、北アメリカのグレートプレーンズのようにセンターピボットを活用している所もある。しかし、灌漑に使用する水の多くを地下水に頼っている所では、大量のくみ上げによる地下水の枯渇や地盤沈下が懸念されている。

● 作物の栽培に必要な水を、直接農地に降る雨水の利用以外の方法によって供給すること。河川・湖沼の水や地下水などが用いられる。

● 草だけでなく、低木がみられることもある。イネ科の植物が多く、乾季は乾燥のために枯れる。

確認 乾燥帯にみられる灌漑設備の例を本文から書き出そう。

説明 乾燥帯の気候と住居の関係を、写真2などを参考に説明しよう。

POINT 4

資料から地理的事象を読み解くための問いや着眼点を示しています。

- **ビジュアルな模式図**と丁寧な解説文で、地震や津波、火山噴火の要因である地形の構造や発生のしくみ、気象の変化によって起こりやすい災害などをわかりやすく説明しました。
- 近年、増加している**線状降水帯**など気象災害に関する模式図を新たに追加しました。

▼ p.192-193

主な被害地震の震央
(1889年以降)
● M8.0以上
○ M7.0~8.0
▲ Mはマグニチュード
→ 主な活断層

1 令和6年能登半島地震で被害を受けた家屋 (石川県珠洲市、2024年1月)
2 主な地震の震央と活断層 (読み解く) 規模の大きな地震が多い場所と、p.190図2のプレート境界にはどのような関係があるのだろうか。

3節 地震・津波や火山活動による災害と防災

1 地震・津波のしくみと被害

地震によって、どのような被害が生じる可能性があるのだろうか。

地震の種類と被害の特徴

地震は、プレートの沈み込みや衝突により力を加えられた地殻がひずみを蓄積し、ひずみが一気に解放されるときに生じる。主に二つのプレートの境におけるずれによって起こる地震は**海溝型地震**とよばれ、2011年の東北地方太平洋沖地震のような巨大地震を引き起こす。一方、単一のプレートのなかにある**活断層**のずれによって起こる地震は**直下型地震**とよばれ、1995年の兵庫県南部地震のように、相対的に狭い範囲に被害をもたらす。

地震が発生した場所(震源)における地震の大きさは、**マグニチュード(M)**で表される。マグニチュードの値が1大きくなると、地震のエネルギーは約32倍になる。また、地震による各地点の揺れを示す指標が**震度**であり、この大きさが、実際の被害の種類や規模と対応する。マグニチュードが大きくても、震源が深かったり遠かったりすれば、震度は小さくなる。地震の際には、土地の揺れや**液化現象**による建物の倒壊、火気が建物やガスに移ることによる**火災**、山間部での**崖崩れ**や**地すべり**などが生じる。さらに海溝型地震では、海底地形が急激に変化することで**津波**が発生し、海岸地域に甚大な被害をもたらすこともある。

クローズアップ 地震や津波が発生するしくみ

■地震のしくみ

1 海溝型地震 海洋プレートが沈み込むと、大陸プレートも引きずられてひずみがたまり、限界に達すると、大陸プレートが跳ね上がった地震が発生する。発生周期は、およそ数十年から数百年

2 直下型地震 海洋プレートの沈み込みによる圧力で大陸プレートの内部にひずみがたまって活断層がずれ動き、地震が発生する。発生周期は、およそ数百年から数十万年。震源は地下十数kmと浅いことが多い。

3 直下型地震のしくみ(模式図)

■津波のしくみ

津波は、一般的に、海溝型地震の発生に伴う大陸プレートの跳ね上がりによって、海底が隆起したり沈降したりすることで発生する。海底地形の変化と運動して、海水も隆起したり沈降したりする。隆起した海水は重力によって崩れ、高波となってあらゆる方向へ広がる。陸に向かった波は、水深が浅くなるにつれて高さを増し、津波となる。

津波

津波によって流された船や自動車(チリ、タルカワノ、2010年) チリ沖の海溝型地震に伴って発生した津波は、南アメリカの太平洋沿岸を襲い、日本にも到達した。

●「防災」単元の模式図一覧(全11か所)

ページ	内容	ページ	内容
p.192 3	主な地震の震源の深さ	p.203 2	さまざまな気象災害
p.193 4	海溝型地震のしくみ	p.205 4	線状降水帯のしくみ
p.193 5	直下型地震のしくみ	p.205 5	台風のしくみ
p.193 7	津波のしくみ	p.206 6	都市部で洪水が起こるしくみとその対策
p.197 4	噴火のしくみ	p.206 7	ヒートアイランド現象によって都市部の気温が上がるしくみ
p.197 5	火山の恵みと火山災害		

クローズアップ 大雨をもたらす線状降水帯と台風のしくみ

■線状降水帯のしくみ

線状降水帯とは、積乱雲が列をなし同じ場所に次々と発生することで生じる長さ300~500km程度、幅20~50km程度の線状の降水帯のことを指す。積乱雲群が同じ場所を通過したり停滞したりすることで大雨をもたらす。日本では、台風による直接的な大雨を除いた集中豪雨のうち、約3分の2で線状降水帯が発生したと推定されている。

2014年8月20日午前2時~3時の広島県付近の解析雨量(1時間積算) 広島県で線状降水帯が発生し、1時間の雨量が80mmを超える猛烈な雨が観測された。8月19日から20日までの積算雨量が300mm近くになる地域もあった。

■台風のしくみ

熱帯の海洋上で発生する低気圧のことを**熱帯低気圧**といい、このうち北大西洋または南シナ海に存在し、中心付近の最大風速が秒速17.2m以上のものを**台風**とよぶ(≒p.58)。中心に雲のない台風の目があり、厚い積乱雲が台風の目の周りを壁のように囲んでいる。積乱雲の下では激しい雨や突風がもたらされる。

POINT 1

能登半島地震など、新しい事例を取り上げています。

POINT 2

海溝型地震と直下型地震の発生するしくみへの理解が深まるよう、右ページ上段にイメージがわかる模式図を掲載しています。

POINT 3

迫力ある模式図によって、津波発生のメカニズムや台風のしくみを視覚的に理解できるようにしています。

POINT 4

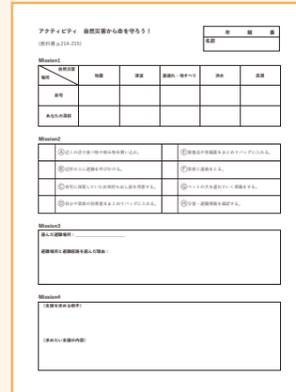
段階ごとに描いたビジュアルな模式図で、線状降水帯が発生するしくみを視覚的に理解できるようにしています。

- アクティビティを通して、災害から命を守るためにとるべき行動について、思考力・判断力が養えるようにしました。
- 生徒どうして考えた行動を共有・比較することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしています。
- 教科書に直接書き込める構成で、アクティビティに取り組みやすくしています。

▼ p.214-215

ワークシート

このページに対応したワークシートもご用意しています。
QRコンテンツ(⇒本資料p.36-37) および指導書Webサポート
(⇒本資料p.38-39) よりダウンロードしてご利用いただけます。



アクティビティ

ACTIVITY
Let's think about it.

自然災害から命を守ろう!

ワークシート



自然災害が、いつ、どこで、どれくらいの規模で発生するのかわかることは難しい。万が一、あなたやあなたの家族の身に危険が迫ったとき、どのような判断をしなければならないだろうか。巨大地震の発生を想定して考えよう。

Mission 1 あなたは太平洋に面する海沿いの町に住んでいると仮定しよう。下の地図は、自宅やあなたが通う高校の周辺の様子を表したものである。自宅と高校では、それぞれどのような自然災害の危険があるだろうか。下の表で、当てはまるものすべてに○印を記入しよう。



↑ 自宅や高校の周辺の様子を表した地図

場所	自然災害	地震	津波	崖崩れ・地すべり	洪水	高潮
自宅						
あなたの高校						

②

Mission 2 1月のある平日の午後4時、あなたが自宅にいたときに、太平洋沖を震源とする巨大地震が発生した。あなたの町では激しい揺れを観測し、40分後に最大10mの津波が到達すると予想されている。さて、あなたは避難に向けてどのような行動をとるべきだろうか。下のA~Hの行動から三つ選び、優先度が高い順に1~3を記入しよう。

あなたの家族設定(地震発生時の居場所): 父(会社) 母(スーパーマーケット) 妹(保育園)
祖母(デイケアセンター) ペットの犬(自宅の庭)

A 近くの店で食べ物や飲み物を買込む。	E 貴重品や常備薬をまとめてバッグに入れる。
B 近所の人に避難を呼びかける。	F 家族と連絡をとる。
C 自宅に保管していた非常持ち出し袋を用意する。	G ペットの犬を連れていく準備をする。
D 自分や家族の防寒着をまとめてバッグに入れる。	H 災害・避難情報を確認する。

Mission 3 津波の到達まであと30分。自宅から避難場所へ向かおう。避難場所の候補は⑦~⑩の4か所である。それぞれ異なる立地条件を考慮して最適だと考える避難場所を一つ選び、津波が到達する前にたどりつけるよう、避難経路を図1に書き込もう。また、なぜその避難場所・避難経路を選んだのか、理由を書き込もう。

- ⑦ 海に面した小山: 自宅から最短距離にあるが、海に近くても狭く、途中に高低差30mの急な上り坂がある。
- ⑧ 山のふもとにある運動公園: 海から離れているが、最短経路の道は川沿いを通る。
- ⑨ ビルの屋上: 海にやや近いが、建物は13階建てと高く、屋上にはヘリポートもある。
- ⑩ あなたの高校: 自宅から遠いが、海から離れており、標高が約30mの高台にある。

選んだ避難場所: _____

避難場所と避難経路を選んだ理由: _____

Mission 4 あなたと家族は無事に避難場所にたどりつくことができたが、町は津波の被害を受けた。これから避難場所での生活を送るうえで、どのようなものが必要になるだろうか。Mission2に記された季節や家族構成などを考慮して、誰にどのような支援を求めたいか、あなたの考えを書き込もう。

〈支援を求める相手〉 _____

〈求めたい支援の内容〉 _____

支援を求める相手には、周辺の市区町村や都道府県、自衛隊などがあるね!

③

対話 あなたが選択した行動や避難場所・避難経路についての考えを、クラスやグループで紹介し合おう。そして、あなたの選択を見直すべきか、あなた自身でもう一度考えよう。

●「アクティビティ」ページの流れ

- ① 具体的な場面がイメージできるイラストマップを用いた問いによって、自然災害を自分ごととしてとらえやすくしています。
- ② 正解のない問いを通して、命を守るための思考力・判断力を磨けるほか、生徒の多様な考えを引き出し、議論につながるようになっています。
- ③ 最後に対話を促す問いを設置し、ここまでのアクティビティを通して考えたことを生徒どうして共有・比較することで、学習を深められるようになっています。

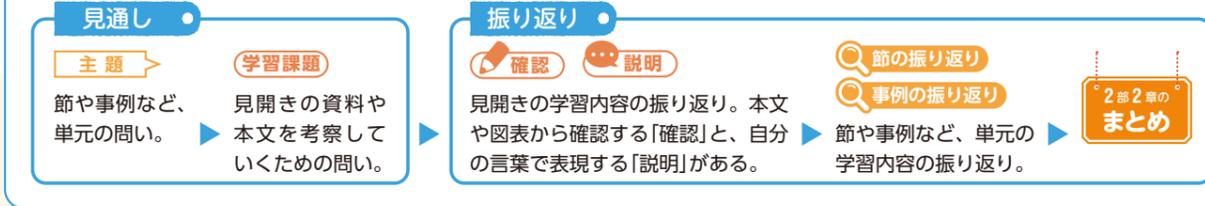
●「アクティビティ」ページの一覧 (全3か所)

ページ	内容
p.160-161	日本の生活文化を紹介しよう!
p.186-187	持続可能な社会に向けて私たちができること
p.214-215	自然災害から命を守ろう!

見やすく、学習に取り

- 写真や図版で学習意欲を引き出し、側注解説、地図帳活用、コラムによって、深い学びにつながる知識を多方面から補完できるようにしています。
- 見開き単位で見通し・振り返りの問いを設置し、理解が深まるようにしています。

組みやすい見開き構成



▶ p.42-43

臨場感あふれる大きな導入写真は本文内容と密接に関連しており、生徒の興味・関心を引き出すようにしています。

学習課題
見開きごとに学習課題を設定し、見通しをもって学習を始められるようにしています。



↑1 甲府盆地にみられる扇状地(山梨県甲州市・笛吹市、2022年8月)

→2 観光農園でぶどう狩りを楽しむ人々(山梨県笛吹市、2015年9月)

2 河川がつくる地形と人々の生活

河川がつくる地形の上では、人々のどのような生活がみられるのだろうか？

着目!! 地形の特徴や土地利用に着目しよう。

QRコンテンツ
動画(扇状地、三角州)



着目!!
着目ポイントをわかりやすく提示し、要点を確実に押さえられるようにしています。



↑3 V字谷(富山県黒部市) 黒部川の激しい流れによって削られてきた。

① 完新世(約1万2000年前から現在までの地層が堆積し、現在も形成中の平野のこと。山地から河口にかけて、谷底平野、扇状地、氾濫原、三角州に分類される。単に平野という場合には、沖積平野、海岸平野、台地を指す。

河川の上・中流域の地形
河川の上・中流域の山地や盆地にみられる地形の多くは、水の作用で生じる侵食・運搬・堆積の働きによってつくられる。日本のように隆起が活発な地域では山地がくられやすく、降水量が多い気候の下で山地は河川によって深く削られ、V字谷のような険しい地形が形成される。人々は山地の森林を利用して林業を行い、また水源としても利用してきた。地すべりや崖崩れなどによって山地が削られて生じる土砂は、河川によって下流に運ばれ、盆地や低地で堆積して沖積平野を形成する。

沖積平野のなかでも、谷の出口には特に礫や砂が堆積しやすく、扇状地が形成される。扇状地では水が地下に浸透しやすいために、地表に水が少なく、水田よりも畑や果樹園に利用されることが多い。甲府盆地や山形盆地などでみられる扇状地には、ぶどうや桃、さくらんぼなどの果樹園が多く、収穫時期には果物狩りが行われる所もある。一方、扇状地の末端(扇端)では地下水が湧き出するため、集落や水田が多い。また、山間の谷や扇状地では、大雨の際に土石流による被害が生じることがある。盆地や山間の谷には、以前の谷底が川に掘り込まれて形成された、階段状の地形である河岸段丘がしばしばみられる。

42 中学校との関連 ●扇状地 ●台地 ●三角州(デルタ)

側注解説で本文の補足をしています。

中学校で学習した用語が一目でわかるようにしています。



↑4 河川がつくる地形(模式図)



↑5 河岸段丘(群馬県沼田市、2022年) 河川の流路に沿って階段状の地形がみられる。階段の平らな面(段丘面)には、住宅地や水田が広がっている。その周辺の急な崖(段丘崖)は、森林に覆われている。



↑6 氾濫原(青森県弘前市・板柳町、2016年) 津軽平野を流れる岩木川の両岸に氾濫原が広がっている。自然堤防の上には家屋が並んでいる。

→7 台地(静岡県磐田市、2020年) 右側の台地は茶畑や果樹園、住宅地として利用されている。左側の標高が低い場所は川に近い低地で、水田や住宅地が広がっている。

河川の下流域の地形
河川の下流域では、上流から運ばれた礫や砂などが堆積し、氾濫原とよばれる平坦な土地ができる。氾濫原を流れる川は蛇行し、古い河道の跡の一部は三日月湖になっている。洪水の際に川に沿って土砂が帯状に堆積すると、自然堤防とよばれる微高地ができ、その背後は水はけの悪い後背湿地となる。自然堤防は集落や畑、後背湿地は主に水田として利用されてきた。氾濫原の周辺には、古い氾濫原や扇状地が隆起してできた台地がしばしばみられる。台地は水はけがよく、畑や果樹園に利用されることが多いが、水道の整備や灌漑によって集落や水田になっている例もある。
河口付近では、砂や泥が堆積して三角州(デルタ)がつくられる。三角州は土地が平坦で水を得やすいため、古くから水田や集落に利用されてきた。後背湿地や三角州は、自然の状態では洪水や高潮の被害を受けやすいが、堤防を築くなどして安全に暮らせるための対策が講じられた結果、多くの人が生活する場所になっている。



↑8 三角州(広島県広島市、2020年) 三角州の上では河川が分流入しやすく、水運に適する。土地が平坦なため大都市も発達しやすい。

43 地図帳活用 河川がつくる小地形の主題図や地形図で、扇状地や河岸段丘、氾濫原、台地での土地利用の違いを確認しよう。

地図帳を活用して学びを深めることを促しています。

対応する図番号を本文に表記し、資料の活用を促しています。

確認
学習内容の基本事項を本文や図表から確認します。

確認 河川によりつくられる地形を本文や図表で確認しよう。

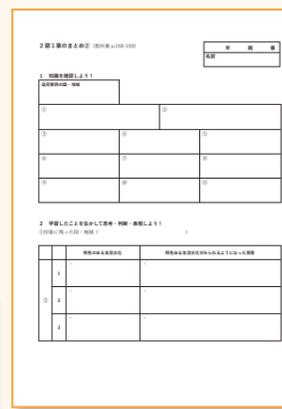
説明 集落・水田・畑・果樹園が多い地形の場所を、それぞれ理由とともに説明しよう。

説明
「学習課題」に対応した問い。学習を通して身につけた知識・技能を活用しながら、思考力・判断力・表現力を用いて説明します。

- 部や章の終わりに「まとめ」ページを設置しています。
- 1で本文を振り返った知識・技能の確認、2で資料を使った思考力・判断力・表現力の活用、3で主体的に学習に取り組む態度に関連したアクティビティに取り組む構成にしています。123で3観点別の評価ができるようにしています。
- 手軽に取り組むことができるよう、教科書に直接書き込める構成にしています。

ワークシート

このページに対応したワークシートもご用意しています。
QRコンテンツ(⇒本資料p.36-37)および指導書Webサポート
(⇒本資料p.38-39)よりダウンロードしてご利用いただけます。



▶ p.158-159

2部1章の まとめ②

生活文化の多様性と国際理解 — 追究事例 —

1 知識を確認しよう!

教科書の本文を参考に、適切な語句を記入しよう。
あなたが p.74~157 で学習してきた追究事例の国・地域を一つ選び、その地域でみられる地形や気候の特徴を答えよう。※複数ある場合は複数回答可

追究事例の国・地域 ()
地形の特徴 ① _____
特徴 ② _____

それぞれの宗教で食べてはいけないものをま _____
のである。③~⑤に当てはまる宗教名を、イス _____
ム教、ヒンドゥー教のなかから答えよう。

④ _____ ⑤ _____

宗教	食べてはいけないもの
キリスト教	馬肉(曜日によって肉類を禁ずる宗派もある)
③	豚肉、豚脂などを含む製品、血、酒、処理の作法が守られなかった肉
④	肉、卵、魚介類全般
⑤	牛肉、牛脂などを含む製品(人によっては肉類全般、卵などを食べない)
ユダヤ教	豚肉、馬肉、うろこのない魚介類(うなぎ、いか、たこ、貝類、甲殻類など)、処理の作法が守られなかった肉

*地域によって差がある

POINT 1

穴埋めを設置し、知識の確認や単元の整理ができるようにしています。

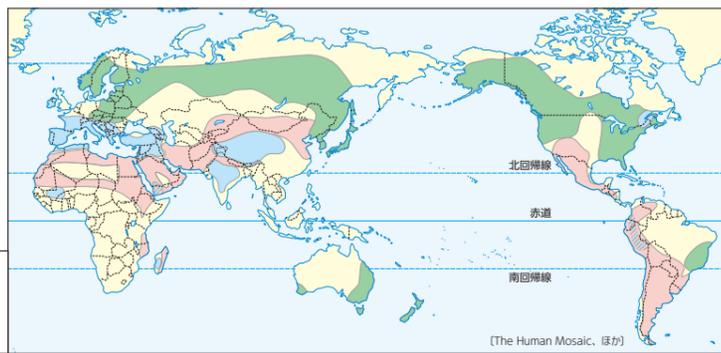
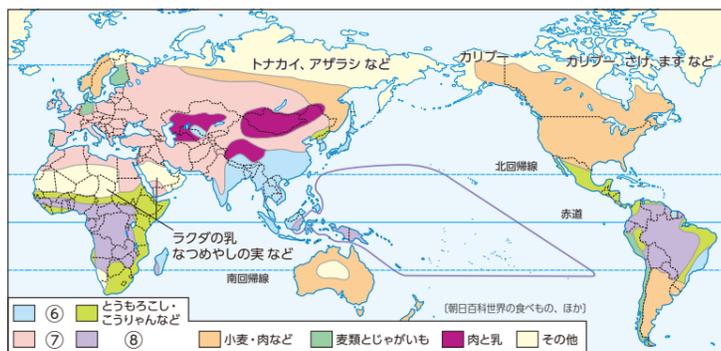
主食の主な材料の分布と、住居の主な材料の分布を示した地図である。⑥~⑪に当てはまる語句を、語群から答えよう。

- ⑥ _____
- ⑦ _____
- ⑧ _____
- ⑨ _____
- ⑩ _____
- ⑪ _____

【語群】

いも類 米 小麦
石 土 木

- ⑨ を使った家が多い所
- ⑩ を使った家が多い所
- ⑪ を使った家が多い所
- その他



2 学習したことを生かして思考・判断・表現しよう!

1 p.74~157 で学習してきた追究事例の国・地域において、印象に残っている国・地域を一つ選ぼう。

2 1で選んだ国・地域の特徴ある生活文化の例を三つ書き出そう。また、その生活文化がみられるようになった背景を地理的環境に着目して説明しよう。



1 印象に残った国・地域()

	特色ある生活文化	特色ある生活文化がみられるようになった背景
1	.	.
2	.	.
3	.	.

生活文化は、地形や気候、歴史的背景や人々の産業の営みなどと、どのような関わりがあるのかな?



POINT 2

学習内容を糸口に、地理的な見方・考え方を働かせながら取り組む課題を設けて、思考力・判断力・表現力を養えるようになっています。

POINT 3

単元に関連したアクティビティを掲載しています。生徒に身近な題材を扱うことで、単元で学んだことを自分ごととして考えられるようになっています。

3 主体的に課題に取り組もう!

多文化が共生する社会について考えよう。

1 あなたが暮らす市区町村の総人口と外国人人口の数値を、市区町村のウェブサイトなどを使って調べよう。また、近年、外国人人口がどのように推移しているのかも調べよう。

2 地域に暮らす外国人に対して行われている、暮らしやすい居住環境づくりの取り組みや、古くから暮らす人々との交流の取り組みなどを調べよう。

3 誰もが暮らしやすい街をつくるためには、どのような取り組みが大切だろうか。2の取り組みできるといったことや、あなた自身ができる取り組みなどを考えよう。

4 3で考えたことを発表しよう。また、発表を聞いてあなたになかった考えなどがあれば書き



リオデジャネイロのカーニバル

- 人口の変化
 - ・市区町村名()
 - ・総人口() 外国人人口()
 - ・外国人人口の推移(減少・横ばい・増加)
- あなたが調べた共生に向けた取り組み
- 工夫できること、あなた自身ができること

●「まとめ」ページ一覧(全5か所)

ページ	内容
p.36-37	1部のまとめ 地図や地理情報システムでとらえる現代世界
p.68-69	2部1章のまとめ① 生活文化の多様性と国際理解 — 地形、気候、産業、言語・宗教と歴史 —
p.158-159	2部1章のまとめ② 生活文化の多様性と国際理解 — 追究事例 —
p.184-185	2部2章のまとめ 地球的課題と国際協力
p.212-213	3部1章のまとめ 自然環境と防災

▼ p.14-15

POINT 1

スマートフォンのゲームアプリやナビゲーションアプリなどを取り上げました。GISが生徒の身近な場面で活用されていることを実感できるようにしています。

POINT 2

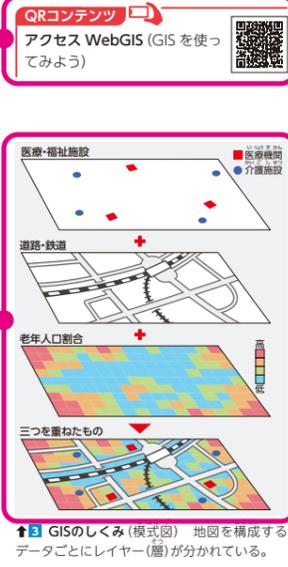
QRコンテンツの「アクセスWebGIS」で、GISを活用した学習に気軽に取り組めるようにしています。(⇒本資料p.36-37)

POINT 3

かみ砕いて説明した本文と、それを補完する図によって、難しいGISのしくみが理解できるようにしています。



1 ナビゲーションアプリによる道案内
2 地理情報システムの利用
3 地理情報システム(GIS)は、どのように役立てられているのだろうか?
4 紙の地図とGISの違いに着目しよう。



14 中学校との関連 ●地理院地図 ●空中写真

身の回りにあるデジタル地図とGIS 私たちの身の回りには、紙の地図だけではない。近年はデジタル版の地図も増えてきている。緯度・経度や住所などの**位置情報**とデジタル地図を結びつけて提供されるサービスは多く、カーナビゲーションやスマートフォン用の道案内アプリは、その典型例である。**特定の場所に関する気温や降水量などの観測データ、人口や生産量などの統計データといった位置情報をもつさまざまなデータとデジタル地図を結びつけるしくみが地理情報システム(GIS)である。**

GISのしくみとその活用 民間企業は、コンビニエンスストアや介護施設といった店舗・事業所の進出計画を立てる際にGISを活用している。地図上に、類似する施設の位置や、進出予定地における周辺住民の年齢・性別などの情報を重ね合わせ、効果的な進出先を分析するのである。また、地方自治体もGISの利用を進めている。上下水道や道路の管理など、もともとは各部署が紙の地図で管理してきた情報を電子化し、GISによって**統一的に管理**することで、行政サービスを向上させている。さらに、誰でも自由にデジタル地図を活用することができる**WebGIS**も数多く公開されている。例えば**地理院地図**では、過去から現在までの**空中写真**や**土地条件図**などを地形図の上に重ね

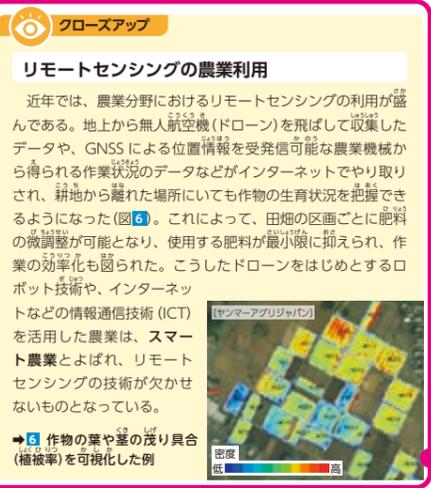
単元のポイント

1部1章 地図・GIS

具体的な事例を交えた丁寧な解説文とそれを補完する図によって、地図やGISの基礎・基本が学べます。また、「SKILL」ページや「アクセスWebGIS」の作業を通じて、地理的技能を習得できるようにしています。



4 GISを用いてつくられた立体的なメッシュマップ このメッシュマップ(→p.18)は、10km四方の人口の多少を高さで色で表している。人口が多いほど、メッシュの面が高く伸び、灰色から黄色、橙色、赤色へと変化する。



3 作物の葉や茎の茂り具合(植被率)を可視化した例

クローズアップ

リモートセンシングの農業利用

近年では、農業分野におけるリモートセンシングの利用が盛んである。地上から無人航空機(ドローン)を飛ばして収集したデータや、GNSSによる位置情報を受信可能な農業機械から得られる作業状況のデータなどがインターネットでやり取りされ、耕地から離れた場所においても作物の生育状況を把握できるようになった(図6)。これによって、田畑の区画ごとに肥料の微調整が可能となり、使用する肥料が最小限に抑えられ、作業の効率化も図られた。こうしたドローンをはじめとするロボット技術や、インターネットなどの情報通信技術(ICT)を活用した農業は、スマート農業とよばれ、リモートセンシングの技術が欠かせないものとなっている。

GISは、ほかにどのような分野で活用されているのか? 巻末4~5で確認しよう!

地上から離れた所から、陸上・海洋・大気などの現象を観測・探査する技術のこと。現在では、人工衛星に専用の測定器を搭載した衛星リモートセンシングが行われるようになった。

確認 私たちの身の回りでGISが活用されている例を、本文や図などを参考に書き出そう。

説明 GISを用いたデジタル地図の利点を、紙の地図と比較しながら説明しよう。

て表示させることができる。データの更新が早いというデジタル地図の特性を生かし、大規模な災害発生時には最新の空中写真が迅速に公開されるため、被害の様子をいち早く知ることができる。ほかにも、**地図で見る統計(jSTAT MAP)**は、統計データをもとに日本国内の統計地図を作成することができ、地域の比較・考察などに有効である。

GISを支える技術 GISでは緯度・経度などの位置情報が重要である。それを支える技術の一つが**全球測位衛星システム(GNSS)**で、アメリカ合衆国の**GPS**がその代表である。GNSSは人工衛星からの電波を受信することで、地球上のどこにいても自分の位置(緯度・経度・高度)がわかる技術である。GNSSはスマートフォンなどに組み込まれており、簡単に現在位置を知ることができる。観光名所や目印になる駅・交差点などでスマートフォンのカメラをかざすと、実際に目で見えている光景に加えて、画面上に情報が追加されて表示されたり、画面のなかからキャラクターが飛び出して見たりするアプリもある。

また、遠く離れた場所の空中写真や人工衛星から取得した観測データを分析する際にもGISが利用されている。それを支える技術の一つが**リモートセンシング(遠隔探査)**である。リモートセンシングは、同じ場所を周期的に観測したり、比較的広範囲にわたってデータを観測・蓄積したりすることに優れ、気象観測などで活用されている。

節の振り返り 紙の地図と地理情報システム(GIS)には、それぞれどのような役割や有用性があるのだろうか。それぞれの特徴を踏まえて説明しよう。

POINT 4

農業分野でのリモートセンシングの利用をまとめたコラムを設置しました。また、さまざまな分野におけるGISの活用事例に着目させる問いを設置し、巻末で確認できるようにしています。

1部1章の「SKILL」ページ一覧(全7か所)

ページ	内容
p.9	等時帯図を読み解く
p.16	地形図の見方と利用
p.17	グラフのつくり方
p.18	統計地図の見方
p.19	階級区分図のつくり方
p.20-21	地理院地図の利用
p.22-23	WebGISの利用

授業展開例

導入 5 min

普段スマートフォンなどで地図アプリを使っているかを問いかける。導入写真のナビゲーションアプリやゲームアプリを提示し、GISの活用例を紹介する。学習課題を確認し、GISのしくみとGISがどのように役立てられているのかを学ぶことを予告する。

展開1 10 min

教科書に沿ってGISのしくみについて解説する。GISにおけるレイヤーの概念を視覚的に理解するために、p.14 3「GISのしくみ」を確認させる。全球測位衛星システムやリモートセンシングなど、GISを支える技術について解説する。

展開2 25 min

GISが社会のどのような場面で活用されているのかを確認させる。p.15「リモートセンシングの農業利用」を例に、どのような分野でGISが活用されているのかを考えさせ、グループで意見交換をし、巻末4-5「さまざまな分野で活用が進むGIS」で確認させる。最後にQRコンテンツの「アクセスWebGIS」に取り組み、GISの復習をさせる。

まとめ 10 min

「確認」の問い「私たちの身の回りでGISが活用されている例を、本文や図などを参考に書き出そう。」に取り組みさせる。また、「説明」の問い「GISを用いたデジタル地図の利点を、紙の地図と比較しながら説明しよう。」に取り組みさせる。最後に、節の振り返りとして、紙の地図とGISそれぞれの役割と有用性について、特徴を踏まえながらまとめさせる。

生活文化

2部 1章 5節 事例5 サハラ以南アフリカ

1. 多様な文化と植民地支配の歴史

▶ p.112-113



↑11 プルンジの打楽器演奏隊(2022年9月) 演奏は、人の誕生や葬儀などの儀式の一環で行われる。

1 多様な文化と植民地支配の歴史

植民地支配の歴史は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか？

※注目! 宗主国による支配の方法や宗教に着目しよう。

多様な民族とそれぞれの文化 アフリカでは、音楽の演奏は純粋な娯楽としてだけでなく、歌や踊りと結びつき、人の誕生や成人の祝い、結婚、病人の治療、葬儀などの儀式のなかで行われてきた。

アフリカ大陸には1600もの民族が存在し、多くの言語が話され、独自の音楽や踊りなど、豊かな文化をつくりだしてきた。なかでも太鼓は種類が豊富で、かつては遠くにいる人との通信手段としても使われていた。また、アフリカでは自然や祖先霊、精霊などを崇拝する多種多様な民族宗教がみられる。ムスリム商人が広めたイスラムや、植民地時代にヨーロッパからの入植者が広めたキリスト教も信仰されており、これらが地域の宗教と混ざり合って、新たな信仰の形をつくることもある。

植民地支配の影響 マリのジェンネでは、モスクの前で月曜市が開かれ、色鮮やかな衣類をまとった人々でにぎわう。



↑12 モスクの前で開かれる市場(マリ、ジェンネ、3月) 現在でも定期的に市場が開かれ、各地からさまざまな物品が集まってくる。日干しれんがと泥でつくられたモスクは約1000人を収容できる大きさで、屋根は100本の柱で支えられている。

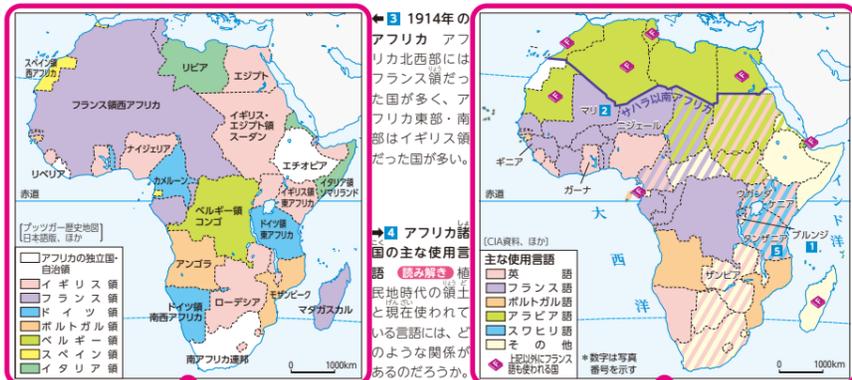
① 植民地など、主権をもたない非独立地域を縦横・支配する本国のこと。

112 中学校との関連 植民地

単元のポイント

2部1章 生活文化

臨場感あふれる写真資料と、衣食住、宗教、習慣などの生活文化をその地理的背景とともに記述した本文で、世界各地の生活文化の多様性が実感できるようにしています。

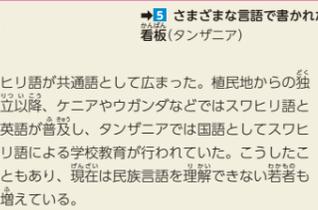


↑13 1914年のアフリカ アフリカ北西部にはフランス領だった国が多く、アフリカ東部・南部はイギリス領だった国が多い。

↑14 アフリカ諸国の主な使用言語 (読み方で植民地時代の領土と現在使われている言語には、どのような関係があるのだろうか。)

↑15 さまざまな言語で書かれた看板(タンザニア)

スワヒリ語で「こんにちは」のあいさつはジャンボ、「ありがとう」はアサンテという。かつてムスリム商人がアフリカ東海岸の人々と交易をしていたころ、アラビア語と現地の言葉が混ざりスワヒリ語が生まれた。アフリカ東部の各民族はそれぞれ異なる民族言語を話していたことから、スワヒリ語が共通語として広まった。植民地からの独立以降、ケニアやウガンダなどではスワヒリ語と英語が普及し、タンザニアでは国語としてスワヒリ語による学校教育が行われていた。こうしたこともあり、現在は民族言語を理解できない若者も増えている。



↑16 人為的国境によって分断された民族

アフリカの多くの国は1960年代に独立したが、その際の国境は、植民地時代にヨーロッパの宗主国によって緯線や経線をもとに引かれた人為的国境が多い。その結果、異なる言語をもつ多くの民族をまとめあげる形で国境が定められ、民族の分断や、各国内における民族間の対立・内戦が起こることもある。また、現在でも旧宗主国と結ぶ航空路線は多く、ヨーロッパから大勢の観光客がアフリカ諸国を訪れる一方、ロンドンやパリにはアフリカからの移民が数多く暮らしている。

「確認」イギリスとフランスの植民地における支配方法や使用言語の違いを、それぞれ本文から書き出そう。「説明」人為的な国境が引かれたことで生じた課題を、民族に着目して説明しよう。

113 地図帳活用 アフリカとヨーロッパを結ぶ航空路の主題図で、便数が多い区間を調べよう。

POINT 2

同縮尺の地図を横に並べて比較しやすくすることで、旧宗主国と使用言語の関係性に気づけるようにしています。

POINT 3

本文は歴史的背景をもとに記述しています。アフリカ諸国の公用語や食文化などの生活文化は、旧宗主国の影響を強く受けていることがわかるようにしています。

POINT 4

地図帳の活用を促し、アフリカ諸国と旧宗主国との関係性に気づけるようにしています。

POINT 1 導入写真と本文によって、アフリカの人々の暮らしには多種多様な民族宗教の文化が根づいていることがわかるようにしています。



授業展開例

導入

5 min

導入写真のp.112 1「プルンジの打楽器演奏隊」を提示し、アフリカには多様な文化があることを知っているか問いかける。学習課題を確認し、ヨーロッパによる植民地支配の歴史が、アフリカの人々の生活にどのような影響を与えたのかを学ぶことを予告する。

展開1

10 min

教科書に沿って、アフリカの民族や文化の多様性について解説する。アフリカの文化を深掘りし、太鼓の役割や民族宗教、イスラムやキリスト教が地域の宗教と融合した例を具体的に解説する。

展開2

25 min

教科書に沿って、植民地支配の影響を受けた生活文化について解説する。間接統治と直接統治の違いや、宗主国の違いから生じた文化について、p.113 3「1914年のアフリカ」やp.113 4「アフリカ諸国の主な使用言語」を提示しながら解説する。人為的国境が民族を分断し、対立・紛争を引き起こした例をp.113 6「人為的国境によって分断された民族」とともに解説する。最後に、地図帳のアフリカとヨーロッパを結ぶ航空路の主題図を活用し、旧宗主国とのつながりを確認させる。

まとめ

10 min

「確認」の問い「イギリスとフランスの植民地における支配方法や使用言語の違いを、それぞれ本文から書き出そう。」に取り組みさせる。また、「説明」の問い「人為的な国境が引かれたことで生じた課題を、民族に着目して説明しよう。」に取り組みさせる。最後に、次は植民地支配の歴史がアフリカの農業や食文化に与えた影響について学習することを予告する。

地球的課題

2部 2章 1節 2. 先進国の人口問題

単元のポイント

2部2章 地球的課題

先進国と発展途上国の具体事例と生徒の身近な話題で構成された本文によって、地球的課題を自分ごととしてとらえることができ、理解が深まるようにしています。

▼ p.166-167



保育園への子供の送り迎えを行う父親（デンマーク、コペンハーゲン、2019年）デンマークでは、出生率の低下を抑制するため、男女ともに産後休暇や育児休暇が保証され、保育施設も充実している。また、医療や教育は原則として税金で賄われ、無償である。



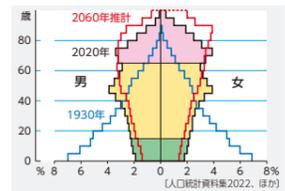
自宅で生活を続ける高齢者夫婦（デンマーク）行政の訪問介護サービスを受けながら、自宅での生活を続けている。

2 先進国の人口問題

先進国には、どのような人口問題があるのだろうか？

着目！ 少子化・高齢化や過疎化の要因に着目しよう。

- 1 全人口に占める65歳以上の人口（老年人口）の割合が7%を超えると**高齢化社会**、14%を超えると**超高齢社会**とよばれる。さらに21%を超えると**超高齢社会**とよばれることもある。
- 2 労働力の中心となる15～64歳の人口のことを**生産年齢人口**という。これに対し、14歳以下を**年少人口**、65歳以上を**老年人口**という。
- 3 1人の女性が一生の間に産む子供の数の平均のことを**合計特殊出生率**の低い先進国では、2.1を下回ると、人口が減少に転じるといわれる。



日本の人口ピラミッドの変化と予測
※読み解く 2020年の日本は、どの人口ピラミッドの型に当てはまるのだろうか。図を参考に考えよう。

先進国の日本を含む多くの先進国では、多産多死から多産少死の時代を経て、少産少死へと変化する**人口転換**が進んで、人口は安定状態に入った。しかし現在は、出生率のさらなる低下と平均寿命の伸びによって**少子化・高齢化**（少子高齢化）が進んでいる。これらが進むと**生産年齢人口**が減少し、**経済が停滞・衰退**するおそれがあるため、労働者不足の解消や高齢者福祉の維持が課題となっている。

先進国が少子化・高齢化という人口問題に直面しているなか、**福祉国家**の一つであるデンマークでは、近年、**合計特殊出生率**が上昇している。その背景には、妊娠した女性とその家族を支援する制度や、女性が仕事と子育ての両立を図るために労働時間の短縮や在宅勤務などの制度を国が整えたことが挙げられる。ほかにも学童保育の充実や、医療や教育の無償化などの支援策がある。また、介護を必要とする高齢者に対しては、家族と一緒に暮らせるように支援するサービスや、入居者どうしが家族のように共同生活を送れる介護施設が増えており、生活環境を可能な限り変えずに福祉サービスを受けられることが理想とされている。ただし、このような充実した福祉は、国民の重い税負担に支えられており、高福祉の維持が課題となっている。

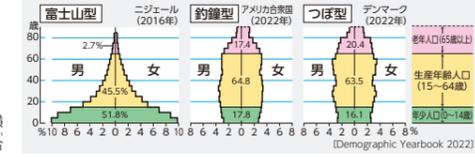
日本の人口問題 日本の人口は少子化・高齢化の進行によって2011年から減少が続き、約1億2400万から2065年には約

166 中学校との関連 ●少子化 ●高齢化 ●生産年齢人口 ●年少人口 ●老年人口 ●合計特殊出生率 ●過疎

スキル SKILL 11

人口ピラミッドの読み取り方

人口ピラミッドは、縦軸に年齢、横軸に各年齢層の全人口に対する割合をとってつくられたグラフである。



さまざまな人口ピラミッド

Let's TRY

- STEP 1 それぞれの型の特徴を()に記入しよう。
- 富士山型** ()人口の比率が高く、()人口の比率が低い。理由は、出生率と死亡率がともに()からで、発展途上国に多い。
 - 釣鐘型** ()人口の比率が高いため労働者人口が多く、経済発展には有利である。理由は、出生率と死亡率がともに()からで、先進国に多い。
 - つぼ型** 釣鐘型に比べて()人口の比率が低い。理由は、出生率の低下が続いているからで、人口の()が心配される。



園児に読み聞かせる高齢者（千葉県市川市、2023年）地域の課題解決に貢献しながら、無理なく楽しく働く、「生きがい就業」の取り組みが行われている。



水産加工場で働く技能実習生（北海道寿都町、2023年）技能実習制度は技能の修得を目的とした制度である。

8800万にまで減少すると推計されている。日本は合計特殊出生率が世界で最も低い水準にあり、総人口に占める**老年人口**の割合（高齢化率）は世界で最も高い水準にある。社会の持続性のために少子化対策は重要であり、保育所や幼稚園の保育料の無償化や学童保育への支援など、出産・育児にかかわる負担軽減や、働きながらも安心して子育てができるような制度やサービスの充実が進められている。

また、人口減少や高齢化の問題の現れ方は地域によって異なる。例えば、高度経済成長期以降、大都市圏へ大量の人口が流出した農村地域では、若い世代の減少と高齢化、そして**過疎化**が進行し、集落の維持が困難な**限界集落**となった所もある。人口減少が進む過疎地では、空き家に都市からの移住者を呼び込む取り組みが進められ、若者の移住もみられるようになってきた。労働力不足が深刻となっている地域では、外国人労働者や技能実習生などの受け入れが増えており、地域住人と外国人との共生が課題になっている。

節の振り返り 世界にはどのような人口問題があり、その解決のためにはどのような取り組みが必要だろうか。日本や身近な地域に着目して説明しよう。

関連するSDGsの目標

人口問題に関連する目標をp.163図2から選んで、番号を書き入れよう。また、選んだ理由を説明しよう。

1 健康と福祉 (人々の健康と福祉を強め、長寿と健康な生活を促進しよう)

3 持続可能な消費と生産 (持続可能な消費と生産を促進しよう)

確認 デンマークにおいて、合計特殊出生率の上昇に寄与した制度や政策を書き出そう。
説明 日本で行われている、少子化・高齢化や過疎化への対策を説明しよう。

POINT 2

教科書に直接書き込める「SKILL」を掲載し、人口ピラミッドの読み取り方を手軽に学習できるようにしています。

POINT 3

学習した地球的課題と関連しているSDGsの目標を書き入れるコーナーを設置し、SDGsを意識しながら学習できるようにしています。

POINT 4

節の振り返りを設置しています。学習した地球的課題を自分ごととしてとらえ、課題解決のために必要な取り組みについて考えられるようにしています。

授業展開例

導入

10 min

p.167のSKILL11「人口ピラミッドの読み取り方」に取り組みさせる。その際、日本とニジェール、アメリカ合衆国、デンマークの人口ピラミッドを提示し、形の違いについて着目させる。学習課題を確認し、先進国が抱える人口問題について学ぶことを予告する。

展開1

10 min

教科書に沿って、先進国で進行する人口問題の現状について解説する。少子化・高齢化や生産年齢人口の減少が社会にどのような影響を与えるか問いかけ、またその要因についても考察させる。

展開2

20 min

デンマークと日本の人口問題への取り組みと課題を学習する。デンマークにおける合計特殊出生率の上昇を取り上げ、その背景となる具体的な取り組みと課題について解説する。次に日本の人口問題の現状について、過疎化など具体例を挙げながら解説し、その要因や対策、課題について説明する。最後に日本とデンマークの人口問題への取り組みとその課題を比較する。

まとめ

10 min

「確認」の問い「デンマークにおいて、合計特殊出生率の上昇に寄与した制度や政策を書き出そう。」に取り組みさせる。また、「説明」の問い「日本で行われている、少子化・高齢化や過疎化への対策を説明しよう。」に取り組みさせる。最後に節の振り返りとして、人口問題解決のためにどのような取り組みが必要か、日本や身近な地域を例に説明させる。

▼ p.196-197

POINT 1
動画を視聴することで、火砕流や土石流発生のしくみを視覚的に理解できるようにしています。

POINT 2
有珠山や御嶽山などの具体事例を記述した本文と写真で、火山の恵みや噴火による被害を具体的にイメージさせ、理解が深まるようにしています。



↑1 噴火する御嶽山(岐阜・長野県、2014年9月27日) ↑2 主な活火山の分布 おおむね過去1万年以内に噴火した火山および現在活発な噴気活動(火山ガスの噴出)のある火山を活火山という。日本の活火山は火山前線とよばれる線をなす。[読み解き] p.190図2と比較して、活火山の分布とプレート境界との関係を読み取る。

3 火山の恵みと噴火による被害

火山は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか？

QRコンテンツ
動画(火砕流、土石流)

1 地層・岩石・地形・火山・断層など、地球や大地に関わるさまざまな自然に親しむ公園のこと。
2 火山が大気中に放出する固体粒子のこと。軽石なども含まれる。火山の爆発によって、上空に吹き上げられ、偏西風などによって遠くまで運ばれる。



↑3 世界ジオパークに認定された有珠山洞爺湖ジオパーク(北海道洞爺湖町、2017年) 洞爺湖はカルデラ(→図5)に水がたまってできたカルデラ湖である。

火山の分布と恵み 日本には100以上の活火山があり、多くはいくつかの列に沿って分布している。これは、マグマがしやすい場所とプレートが沈み込む場所が、平行に分布しているためである。火山が分布する地域には、地下水がマグマだまりの熱で温められて湧き出す温泉が多く、高温の地下水から発生する水蒸気を利用して地熱発電が行われることもある。また、富士山をはじめ、多くの火山は形状が美しく、火口やカルデラに水がたまって、溶岩が川をせき止めたりして生じる湖も多い。このため、火山は観光資源にもなる。近年では、有珠山周辺地域や島原半島、阿蘇のように、その特徴的な地形や地質から世界ジオパークに認定された地域もある。

火山による災害 一方で火山が噴火すると、火山灰の降下などの災害が発生する。2014年の御嶽山の噴火では、火口の近くで火山灰とともに噴石が降下し、多くの登山者の命が奪われた。火山灰の降下が広域的な植生の破壊や農作物の被害をもたらすこともある。また、噴火の規模が大きい場合は、火砕流や溶岩流が生じる。火砕流は火口から噴出した高温の火山ガスが、火山灰や砂礫と一緒に高速で斜面を流れ

単元のポイント

3部1章 防災

ビジュアルな模式図と丁寧な解説文で、地震や津波、火山噴火、気象災害など自然災害発生のしくみを理解できるようにしています。また、「SKILL」ページや「アクティビティ」で実践的な防災スキルが身につくようにしています。

クローズアップ
噴火のしくみ
火山の噴火のもとになるのは、岩石が溶けたマグマ(→p.41)とよばれる物質である。日本列島の火山をつくるマグマは、海洋プレートが大陸プレートの下に斜めに沈み込んだ、地下100～150km程度の深さまでできる。マグマは上昇して、地下5～10kmくらいの深さにマグマだまりをつくる(ア)。ここでマグマは周りの岩石に熱を奪われていき、溶け込んでいた水や二酸化炭素などが、泡となって分離する。その泡から生じた気体によって、マグマだまりの圧力が高くなっていく(イ)。その結果、周囲の岩盤が圧力に耐えられなくなり、マグマが一気に噴出する(ウ)。これが噴火である。

→1 噴火のしくみ(模式図)

火山の恵みと火山災害(模式図) 火山の爆発や噴火による陥没などによってできた大規模な凹地をカルデラといい、日本では阿蘇山が代表例である。

↑4 八丁原地熱発電所(大分県九重町)

下の現象であり、溶岩流は火口から噴出したマグマが斜面を流れ下る現象である。どちらも、通過した場所を焼き尽くしたり埋没させたりするため、非常に危険である。さらに、噴火によって植生が失われた土地に雨が降ると、堆積した火山灰や土砂と水が混ざり合って高速で谷を流れる土砂流や泥流が生じやすく、下流部の集落を埋没させる危険もある。

確認 火山があることによる恵みの例を、本文や図5から書き出そう。
説明 火山の噴火による被害の例を説明しよう。

地図帳活用 御嶽山などの火山ハザードマップで、火砕流の到達想定範囲を調べよう。

1章 3節 地層・海・火山災害と防災

POINT 3
ビジュアルな模式図と噴火の過程を段階的に記述した解説文で、火山災害や噴火のしくみを理解しやすくしています。

POINT 4
「アクセスWebGIS」で、GISを活用しながら火山地形の読み取り方を学習できるようにしています。

授業展開例

導入 5 min
p.196 1「噴火する御嶽山」を提示し、火山活動が地域の人々にどのような影響を与えているのかを問いかける。学習課題を確認し、火山の恵みと噴火による被害について学ぶことを予告する。

展開1 10 min
教科書に沿って、火山の分布と恵みについて解説する。p.196 2「主な活火山の分布」で、活火山の分布とプレート境界との関係を読み取らせる。ジオパークや地熱発電所の写真を提示し、生徒どうしで知っている火山とその恵みについて共有させる。

展開2 25 min
教科書に沿って、火山による災害について解説する。火砕流や土石流など具体事例を本文で確認させた後、QRコンテンツ収録の動画で発生のメカニズムを確認させる。地図帳を活用し、御嶽山の火山ハザードマップで火砕流の到達範囲を調べさせる。p.197 4「噴火のしくみ」を提示し、噴火のしくみを解説する。最後に「アクセスWebGIS」に取り組みせ、火山地形の読み取り方を学習させる。

まとめ 10 min
「確認」の問い「火山があることによる恵みの例を、本文や図5から書き出そう。」に取り組みさせる。また、「説明」の問い「火山の噴火による被害の例を説明しよう。」に取り組みさせる。最後に、次は火山噴火への対策について学習することを予告する。

全体構成

特色 ①

特色 ②

見開き構成

まとめページ

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

教科書内容の理解を助ける 充実のQRコンテンツ

教科書の各所に配置しているQRコードを読み取ることで、学習内容の理解を深めるさまざまなコンテンツをご利用いただけます。

※QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります



※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

<https://tks46.jp/08hs/geo2>



スマートフォンからも
閲覧可能

▲QRコンテンツ トップページ

アクセスWebGIS

全12点

WebGISコンテンツを12テーマ収録し(2テーマ新設)、さまざまな単元でGISを活用した授業ができます。各テーマに対応したワークシートも収録しています。



ボタンをタップするだけで、地図を切り替えられます。

テーマ	テーマ
1 GISを使ってみよう1 (デジタルの地図と地球儀)	7 世界の食卓に影響を与える農業
2 GISを使ってみよう2 (地理情報システムの活用)	8 地球的課題を考える
3 GISを使ってみよう3 (さまざまな統計データ)	9 自然災害と自然環境の関係 NEW
4 植民地支配の影響が残るアフリカの産業	10 火山地形の読み取り方 NEW
5 EU統合による工業や社会への影響	11 河川地形とさまざまな気象災害1 (扇状地)
6 産業の発展を支えてきた移民の力	12 河川地形とさまざまな気象災害2 (河岸段丘と氾濫原)

▲テーマ一覧 (全12テーマ)

事例の舞台 イラストマップ解説

全82点

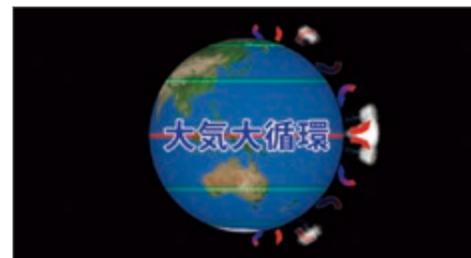
マップ上のイラストをタップすると、実際の写真と地理的な特徴や生活文化に関わる解説がポップアップで表示されます。



動画

全20点

地形や気候、自然災害発生のしくみ、地理院地図の使い方などを解説した動画を収録しています。



一問一答

全522問

重要用語とその意味を確認できます。ブックマーク機能で間違えた問題だけピックアップし、繰り返し取り組むことができます。



用語解説

全636語

教科書に掲載している重要用語などの定義や意味を確認できます。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できます。



統計資料

全161項目

世界や日本の統計を掲載しています。円グラフや統計地図で表現することができます。



世界74項目

日本87項目

地域分析Web

全84テーマ

日本のさまざまな統計を3Dのメッシュマップで可視化できるWebGISを収録しています。



NHK for School

全104点

NHK for Schoolの動画のなかから学習に関連のあるものを厳選し、リンクを掲載しています。

見通し・振り返りシート 特設ワークシート

見通し・振り返りシート30点

特設ワークシート8点

授業で活用できる見通し・振り返りシートや、特設ページに対応したワークシートです。

思考ツール・白地図

思考ツール全11種

白地図全93点

思考ツールの解説動画とワークシート、世界と日本の白地図を収録しています。

外部リンク

全19点

地理院地図やRESASなど主体的な学習に最適な外部リンクを掲載しています。

※内容は一部変更になる可能性があります

ご指導を支援する教科書関連教材が充実しています

指導資料

<p>①指導用教科書</p>	<p>●教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や発問例などを掲載しています。</p>
<p>② Web サポート</p>	<p>●授業をサポートするコンテンツを多数収録しています。帝国書院のウェブ会員ページよりダウンロードしてお使いいただけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■教科書紙面ビューア ■授業スライド(.pptx/Googleスライド) ■授業プリント(.docx) ■見通し・振り返りシート(.docx/Googleスプレッドシート) ■特設ワークシート(.docx) ■教科書本文(.txt) ■教科書掲載図版〈カラー・モノクロ〉(.jpg) ■レイヤー分けした主題図(.html) ■映像資料 ■図版アニメーション ■年間指導計画案・評価規準例(.xlsx) ■学習課題・確認・説明の解答例(.txt) ■評価問題例(テスト例)(.docx) ■一問一答(.xlsx) ■用語解説(.xlsx) ■「アクセスWebGIS」ワークシート(.pdf) ■白地図集(.jpg) ■教科書QRコンテンツへのリンク ■GIS主題図クリエーター(体験版)へのリンク(クーポンを登録してから半年間利用可能)
<p>③使い方・Web サポート等案内冊子</p>	<p>●指導用教科書の使い方と、Webサポートのコンテンツを紹介しています。</p>

定価：2025年9月中旬頃公開予定

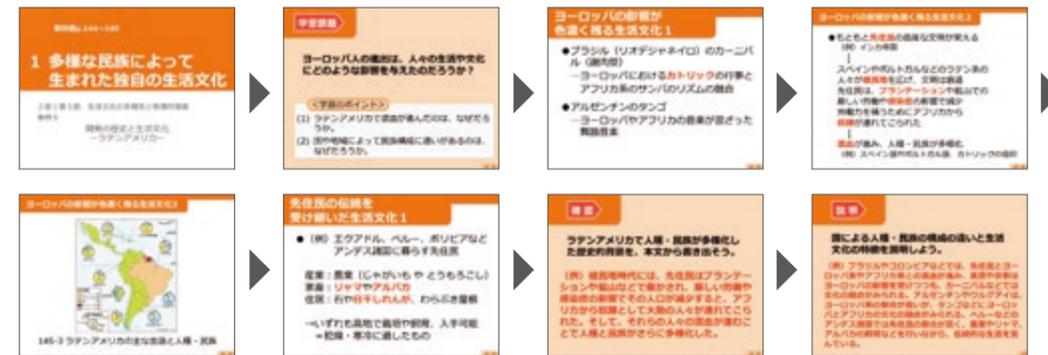
指導用教科書

▶教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や板書例(要点整理)、「学習課題」「確認」「説明」の解答例などを掲載しています。



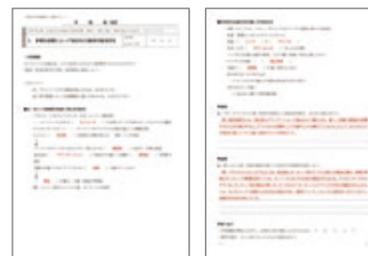
Webサポート 授業スライド

▶教科書本文ページ1見開きごとに授業スライドを収録しています。加工してお使いいただけます。
▶PowerPointとGoogleスライドの2形式を収録しています。



Webサポート 授業プリント

▶授業スライドに対応したプリントを収録しています。加工してお使いいただけます。



Webサポート 教科書紙面ビューア

▶教科書紙面を先生方の端末でご覧いただけるビューアです。



副教材



高校生の地理総合ノート

教科書に完全準拠したフルカラーのノートです。「チェック」で基礎の定着を図り、「トライ」で地図やグラフ、写真を使った作業に取り組みます。



地理統計Plus -Web GIS付き-

ワンポイント解説のある統計資料です。世界・日本の全地域の統計データを地図化できる「統計見えマップ」を搭載しています。



新詳地理資料 COMPLETE

地理の基礎・基本から大学入試対策まで網羅した資料集です。



図説地理資料 世界の諸地域NOW

地理総合に最適でビジュアルな地誌資料集です。



特色一覧

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の生活文化のあり様を楽しく学習でき、また地理的な見方・考え方を働かせることで地理的技能が身につくようになっている。また、現代世界が抱える諸課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるようになっている。 世界各地のいまの姿が見える臨場感あふれる大きな写真で、生徒の興味・関心を高め、理解が深まるようになっている。 世界各地の生活文化の特色や現代世界が抱える諸課題を、豊富な具体事例を通して学ぶことで異文化理解につながる教科書になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 1部1章「地図や地理情報システムと現代世界」では、具体事例を交えた丁寧な解説文とそれを補完する図によって、地図やGISへの理解が深まるようになっている。また、地図やGISの活用といった地理的技能を習得できるよう、特設「SKILL」が設置されている。 1部2章「結びつきを深める現代世界」では、国家間の結びつきや地域的な枠組みについて理解を深め、幅広い知識を身につけられるよう、交通・通信や観光など、グローバル化が進む現代世界の様子が地図や写真などで示されている。 2部1章「生活文化の多様性と国際理解」では、世界各地の多様な習慣や価値観を理解できるよう、イラストマップや生活文化に関わる写真でとらえる特設「事例の舞台」を設けている。本文ページでは、各地の人々の生活文化にどのような特色や背景があるのか、具体的な記述で理解できるようになっている。また、臨場感のある写真を数多く掲載し、生徒がその国・地域に対してイメージを膨らませやすくなるよう工夫がなされている。さらに、日本と世界の共通点や相違点が見つけやすくなっている。 2部2章「地球的課題と国際協力」では、さまざまな地球的課題について、発展途上国や先進国および日本といった立場によって状況が異なることや、解決に向けた国際協力の重要性が理解できるようになっている。また、SDGsと結びつけ、持続可能な社会づくりに向けて自分たちができることを考えるために、特設「アクティビティ」が設けられている。 3部1章「自然環境と防災」では、ビジュアルな模式図や過去の災害の具体的な地域事例から、日本の自然環境の特徴や災害発生時のメカニズム、防災対策までを総合的に学習できるようになっている。また、特設「アクティビティ」では、災害発生時に命を守るためにどのような行動をとるべきか実践的な防災行動について考えられるようになっている。 3部2章「生活圏の調査と地域の展望」では、生徒自身が生活圏にみられる地理的な課題を解決できるように、調査方法が丁寧に解説されている。 教科書全体を通してQRコンテンツが充実し、個別最適な学びに対応できるようになっている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> 原則、1時間1見開き構成とし、分量が適量で学習計画が立てやすくなっている。 学習指導要領に合わせて、重要事項がもれなく丁寧に解説されている。また側注欄の解説や資料、特設コーナーが充実し、発展的な学習もできるようになっている。 見開きごとに、「学習課題→展開→確認・説明」の流れで構成し、見通しを立てて学習できるように工夫がなされている。また、課題を考える手がかりとして「着目」が併設されている。 学習を見通す「主題」や学習内容を振り返る「節(事例)の振り返り」が設置されている。 資料の着目点を示した問い「読み解き」や地図帳の活用を促すコーナー「地図帳活用」が設置されている。 部や章の終わりに「まとめ」ページが設置され、見通し・振り返りや学習評価がしやすいようになっている。 特設「SKILL」では、地理学習に欠かせない重要な地理的技能が習得できるようになっている。 中学校での学習内容を振り返ることができるよう、「中学校との関連」のコーナーが設置されている。
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> 人々のくらしが見える写真や、地域の特徴が見える地図・グラフなどの資料が豊富に設けられている。 丁寧な本文記述で、地理的事象の背景や因果関係がわかるようになっている。 小学校5年生以上で学ぶ漢字の読みにふりがなを付し、重要語句へのゴシック(太字)が効果的につけられている。 随所に本文内容を補足する用語解説が設置され、理解を助ける工夫がなされている。 本文に関連図版・写真の図番号が示されており、資料の活用を促す工夫がなされている。 本文行間に関連する事項が扱われている箇所の参照ページが付されている。 グラフなどの統計資料は、新しいデータが使用されている。
ユニバーサルデザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 本文や側注、キャプションなどの文字には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐ配慮がなされている。 カラーユニバーサルデザインを採用し、色覚特性のある学習者にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の判型をワイドなAB判として、図版や写真、コラム、補足解説が充実し、深い学びのための知識を多面的・多角的に補完できるようになっている。 紙は環境に配慮し、かつ鮮明に発色し、裏写りしない用紙となっている。 インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキが使用されている。 使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりになっている。 指導資料や準拠ノートをはじめ、充実した関連教材が用意されている。

著作関係者 ※所属・肩書きは令和7(2025)年3月時点のもの

著作者

青山 弘之 (東京外国語大学 教授)
 五十嵐 和也 (成蹊中学・高等学校 教諭)
 大山 修一 (総合地球環境学研究所 教授)
 小口 高 (東京大学 教授)
 加賀美 雅弘 (東京学芸大学 名誉教授)
 金田 亜妃子 (東京都立国立高等学校 主任教諭)
 日下 博幸 (筑波大学 教授)
 小島 泰雄 (京都大学 教授)

齋藤 晃 (中央大学附属中学校・高等学校 教諭)
 志村 喬 (上越教育大学 教授)
 祖田 亮次 (大阪公立大学 教授)
 堤 純 (筑波大学 教授)
 仁平 尊明 (東京都立大学 教授)
 由井 義通 (広島大学 教授)
 株式会社帝国書院
 ほか1名

編集協力者

秋吉 賢 (福岡県立城南高等学校 教諭)
 一ノ瀬 泰宏 (福岡県立筑紫丘高等学校 教諭)
 鴨河 貴澄 (大阪府立今宮工科高等学校 教諭)
 二宮 浩司 (福岡県立修猷館高等学校 教諭)
 濱崎 新一 (筑紫女学園高等学校 元教諭)

特別支援教育に関する監修・校閲者

丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭)